

科目名 心理学概論 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>人間を理解していくために、心理学は欠くことのできない方法論を提供する。そして、今日の心理学は様々な立場や理論が打ち立てられており、個々の理論を学ぶことと同時にそれらを系統立て、道具としても使えなければならない。本講義のねらいは、これから本校で心理学を学ぶにあたって、学生が、その知識を整理できるように、心理学の全体像をつかむことにある。</p>			
<p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 心理学とは 2. 心理学の歴史① 3. 心理学の歴史② 4. 心理学の方法① 5. 心理学の方法② 6. 脳と知覚① 7. 脳と知覚② 8. 脳と知覚③ 9. 記憶 10. 思考 11. 知能① 12. 知能② 13. 情緒 14. 前期のまとめ 15. 前期試験		16. 動機づけ① 17. 動機づけ② 18. パーソナリティ① 19. パーソナリティ② 20. パーソナリティ③ 21. パーソナリティ④ 22. ストレス① 23. ストレス② 24. 発達① 25. 発達② 26. 発達③ 27. 発達④ 28. トランスパーソナル心理学 29. 後期まとめ 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 行動心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>心理学の黎明期には被験者に起こる心理現象を被験者自身が内省し、報告する内観心理学が中心であった。その後、心理学を科学として位置付けるために、客観的に観察可能な「行動」を研究対象とし、人間という存在に起こるあらゆる現象を行動として捉え、分析し、理解し、予測しようとする立場が行動心理学である。</p> <p>本講義では行動心理学の基本的な態度を学び、その後でこれを心理臨床に応用した行動療法の全体像を把握することを目的とする。</p>			
<p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 行動心理学とは 2. 行動理論の展開 3. 情報理論① 4. 情報理論② 5. 情報理論③ 6. 情報理論④ 7. 情報理論⑤ 8. 古典的条件付け① 9. 古典的条件付け② 10. 古典的条件付け③ 11. オペラント条件づけ① 12. オペラント条件づけ② 13. オペラント条件づけ③ 14. まとめ 15. 前期試験		16. 認知行動療法① 17. 認知行動療法② 18. 認知行動療法③ 19. 認知行動療法④ 20. 認知行動療法⑤ 21. 認知行動療法⑥ 22. 認知行動療法⑦ 23. 認知行動療法⑧ 24. 認知行動療法⑨ 25. 認知行動療法⑩ 26. 認知行動療法⑪ 27. 認知行動療法⑫ 28. 認知行動療法⑬ 29. まとめ 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 発達心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>人間は受精の瞬間から死に至るまで一生を通じて発達し続ける存在である。本講義では、ライフサイクルを通じて各期の発達とその諸相について考察を行う。前期では、発達心理学の概要と最も変化が著しく、またその後の発達に影響を及ぼす児童期までを焦点に当てる。後期では、青年期から老年期、死に至るまでの発達と心理的諸相について概説する。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 実務経験 医療法人病院・クリニック内の心理室勤務等。 </div>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. 概論—発達とは何か。発達の意味とその諸問題。 2. 胎生期：医学的視点、生命倫理 3. 周産期：現代の諸問題 4. 新生児期①：運動機能、知覚、認知、思考の発達、言語機能の基礎づくり 5. 新生児期②：動機、情緒の発達、対人関係の形成、自己認識の発端 6. 乳児期①：運動、知覚、認知、思考、言語 7. 乳児期②：動機、情緒、対人、自己認識 8. 幼児期① 9. 幼児期② 10. 幼児期③ 11. 児童期① 12. 児童期② 13. 児童期③ 14. パーソナリティの形成 15. 前期試験		16. 生涯発達心理学とは？ 人生の後半を心理学から捉える 17. 発達の意味、発達に関する諸理論 18. 発達の諸相とライフステージ 19. 各発達段階の心理的特徴①児童まで 20. 青年期 前期 21. 青年期 中期 22. 青年期 後期 23. 成人期 前期 24. 成人期 中期 25. 成人期 後期 26. 老年期 27. 人格発達の統合①パーソナリティ 28. 人格発達の統合②アイデンティティ 29. 人格発達の統合③死 30. 後期試験	
[使用テキスト・参考文献] 「ガイドライン生涯発達心理学」 (ナカニシヤ出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 教育心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>心理学の知識は、教育のいろいろな分野に適用されています。本講義では、前半では教育心理学の主要分野をとりあげて、基本的なキーワードを整理しながら、教育心理学の全体像を掴みます。後半は、テキスト「教育と癒し」を中心として、子ども理解や自己理解の手がかりとなるインナーチャイルドの問題や、教育の前提となる基本的な人間観(身体、感情、思考、意思など)について学んでいきます。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 心理学の歴史 2. 教育心理学の歴史 3. 映画『奇跡の人』(解説) 4. 発達の意義と原理 5. 発達期 6. 発達段階 7. 記憶のメカニズム 8. 効果的な学習法 9. 思考と創造性 10. 知能と学力 11. 人格と性格 12. 人格検査 13. 心理検査 14. まとめ 15. 前期試験		16. 自我と自己 17. 適応 18. 測定① 19. ディスカッション 20. 測定② 21. 教育評価 22. 愛着 23. 養育態度 24. インナーチャイルドとは何か① 25. インナーチャイルドとは何か② 26. インナーチャイルド・メソッド① 27. インナーチャイルド・メソッド② 28. インナーチャイルド・メソッド③ 29. 復習 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>前期は、臨床心理学という分野が心理学全体の中でどのような位置付けになっているのかということを紹介します。</p> <p>また、多くの臨床心理学者が考え出した「人の心を理解するための枠組みとしての理論」の代表的なものを紹介し、解説していくことによって、自分自身をも含めた人間理解のための手がかりを提供することを考えています。</p> <p>後期は、引き続き臨床心理学の考え方の一つである来談者中心療法を紹介します。次に、交流の難しい対象者の一例として発達障害・自閉症児について知ってもらい、実際の現場での活動の様子を紹介することで「臨床現場での援助、支援、協力とはどういうことか」について考える参考情報を提供しようと思っています。</p> <p>実務経験 市内児童相談所においてセラピストとして勤務等。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神分析(フロイト) <ul style="list-style-type: none"> ・フロイトという人 ・意識・無意識の検討のきっかけ(アンナの症例) ・心の仕組みを組みたてるきっかけ(ルーシとエリザベートの症例) ・「イド・エゴ・スーパーエゴ」と防衛機制 ・リビドーの発達段階 ・分析心理学(ユング) <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期やインターン時代の経験 ・言語連相：個人的無意識と集合的無意識 ・ユングとフロイトの考え方の違い ・認知行動療法の事情 ・行動療法(パブロフ・ソーンダイク・スキナー) 		<ul style="list-style-type: none"> ・来談者中心療法(ロジャース) <ul style="list-style-type: none"> ・ロジャースという人 ・カウンセリングの3条件 ・2つの心・3つの自由 ・ASD・発達障害について ・教育・指導と支援・協力 <ul style="list-style-type: none"> 支援するとはどういうことか 相手を知る方法についての着眼点 ・臨床現場での様子 ・後期試験 	
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 心理療法 I ・ II		授業の種類 講義	
授業回数 30 回	時間数 (単位数) 60 (4 単位)	配当学年・時期 1 年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>心理臨床面接の流れを理解しつつ、面接において必要な基本的な知識、態度や技法について考察していく。</p> <p>面接技法についてはマイクロカウンセリングの演習を行い、カウンセリングの実践力を養う。</p> <p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 心理療法とは 2. 受容 3. 共感的理解 4. 信頼関係 5. 臨床心理査定 6. 精神医学的診断① 7. 精神医学的診断② 8. 焦点をあててついていく① 9. 焦点をあててついていく② 10. 効果的な質問① 11. 効果的な質問② 12. 感情の反映① 13. 感情の反映② 14. 内容の反映① 15. 前期試験		16. 内容の反映② 17. 面接スタイルの形成① 18. 面接スタイルの形成② 19. 面接スタイルの形成③ 20. 感情伝達と即時性 21. 情報の構造化① 22. 情報の構造化② 23. 対決① 24. 対決② 25. 自己開示 26. 情報と行動の構造化① 27. 情報と行動の構造化② 28. 面接技法の統合① 29. 面接技法の統合② 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。	

科目名 色彩心理学		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩学の基礎知識の習得 2. 色彩の知覚・感覚への影響 3. 色のイメージが曖昧な理由 (歴史・文化・地域による違い/個人の経験による違い) 4. 日常生活の中の色 5. 配色調和 <p>実務経験 子育て支援相談施設主宰。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学と色彩学、色彩心理という分野 2. 色の基礎知識(色とはなにか? なぜ色が見えるか?)、光と色(分光分布) 3. 眼の構造、色をとらえる仕組み 4. 色の分類と三属性、有彩色と無彩色、混色 5. 色を表示する方法(PCCSカラーオーダーシステム)、色相環 6. トーンについて 7. 色のイメージと象徴 8. カラーイメージパネルの作成① 9. カラーイメージパネルの作成② 10. 色の意味についての解説 11. 色相環、トーンのまとめ 12. 配色調和①(色相を中心に) 13. 配色調和②(トーンを中心に) 14. カラーイメージワーク 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「色彩検定公式テキスト3級」・「配色カード199a」(色彩検定協会)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 臨床医学概論 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の目的・ねらい]</p> <p>医療職に携わる者に必要な疾患の病態と、基本的な検査や治療方法・経過についての基礎知識を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>解剖・生理学的な基礎知識を根拠とし、疾患の病態と診断のための基本的な検査、疾患の経過についての講義をし、疾患の特徴や検査・予後について考える際の、基礎知識となるような取り組みをする。</p> <p>[授業の達成課題]</p> <p>疾患の病態と診断に必要な基本的な検査、疾患の経過について理解し、説明できるようにする。</p> <p>実務経験 看護師として兵庫県下各所において、病院・介護施設等での勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. オリエンテーション 2. 器官系とは 3. 専門用語につて 4. 多職種の役割や連携 5. 脳・脊髄疾患 6. 脳・脊髄疾患の検査と経過 7. 神経・筋疾患 8. 神経・筋疾患の検査と経過 9. 循環器系疾患 10. 循環器系疾患の検査と経過 11. アレルギー・自己免疫疾患 12. アレルギー・自己免疫疾患の検査と経過 13. 内分泌系疾患 14. 内分泌系疾患の検査と経過 15. 試験		16. 呼吸器系疾患 17. 呼吸器系疾患の検査と経過 18. 消化器系疾患① 19. 消化器系疾患② 20. 消化器系疾患の検査と経過 21. 泌尿器系疾患の検査と経過 22. 血液疾患の検査と経過 23. 感染症 24. 感染症の検査と経過 25. 皮膚疾患の検査と経過 26. 産科・婦人科疾患 27. 産科・婦人科疾患の検査と経過 28. 小児疾患 29. 全体の振り返り 30. 試験	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新医療秘書医学シリーズ 2「基礎医学」 ・ 新医療秘書医学シリーズ 3「臨床医学 I 内科」 ・ 新医療秘書医学シリーズ 4「臨床医学 II 外科」(建帛社) 「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率 20%、授業態度(レポート、グループワークなどを含む) 10% 試験 70%</p>	

科目名 解剖学と生理学Ⅰ・Ⅱ		授業の種類 講義		
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修	
<p>〔授業の全体の目的・ねらい〕</p> <p>医療職に携わる者に必要な、人体の仕組みと働きについての基礎知識を習得する。</p> <p>〔授業全体の概要〕 人体の基本単位である細胞から器官系についての仕組みと働きについて講義し、健康とは何か、疾病とは何かを考える際の基礎知識となるような取り組みとする。</p> <p>〔授業の達成課題〕 人体の仕組みと働きを系統的に理解し、説明できるようになる。</p> <p>実務経験 看護師として兵庫県下各所において、病院・介護施設等での勤務。</p>				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕				
1. オリエンテーション 2. 人体の構成 3. 神経系① 4. 神経系② 5. 感覚器系 6. 循環器系① 7. 循環器系② 8. 体液の成分と役割 9. 運動器系① 10. 運動器系② 11. 泌尿器系 12. 呼吸器系① 13. 呼吸器系② 14. 消化器系① 15. 試験		16. 生殖器系 17. 感覚器疾患 18. 心疾患 19. 血液疾患 20. 運動器系疾患 21. 腎・泌尿器系疾患 22. 内分泌系疾患 23. 呼吸器系疾患① 24. 呼吸器系疾患② 25. 消化器系疾患① 26. 消化器系疾患② 27. 消化器系疾患③ 28. 生殖器系疾患 29. 全体の振り返り 30. 試験		
〔使用テキスト・参考文献〕 新医療秘書医学シリーズ 2「基礎医学」 ・ 新医療秘書医学シリーズ 3「臨床医学Ⅰ内科」 ・ 新医療秘書医学シリーズ 4「臨床医学Ⅱ外科」(建帛社) 「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席率 20%、授業態度(レポート、グループワークなどを含む) 10% 試験 70%		

科目名 医薬と検査Ⅰ・Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年後期(連講)	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>保険診療の事務は、臨床医学のめざましい進歩と、複雑な診療報酬の制度の下煩雑化する一方である。この医療事務を能率的かつ円滑に進めるためには、かなりの医学知識が必要である。</p> <p>具体的に、業務であるレセプトの作成や点検をするにあたり、カルテに記載されている内容を理解していなくてはならない。そのために必要な知識である、疾患名とその特徴、診断に必要な検査、さらに治療として行われる投薬などについて学習する。</p> <p>この授業では、医薬として薬剤名とその作用および適応疾患について、検査として、検査項目と内容および適応疾患について学び、また同時に医療秘書検定試験3級の合格を目指す。</p> <p>実務経験 臨床検査技師・臨床病理士資格等を有し、大学病院等で勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<p>1. 医療秘書検定過去問題3級の解答解説および関連問題について</p> <p>2. 医療秘書検定過去問題3級の解答解説および関連問題について</p> <p>3. 医療秘書検定過去問題3級の解答解説および関連問題について</p> <p>4. 医療秘書検定過去問題3級の解答解説および関連問題について</p> <p>5. 医療秘書検定3級 模擬試験1</p> <p>6. 医療秘書検定3級 模擬試験2</p> <p>7. 末梢神経系作用薬</p> <p>8. 中枢神経系作用薬</p> <p>9. 消化器系疾患に用いる薬</p> <p>10. 循環器系疾患に用いる薬</p> <p>11. 呼吸器系疾患作用薬 (耳鼻科系疾患も含む)</p> <p>12. 代謝系疾患に用いる薬</p>		<p>13. アレルギー性疾患治療薬</p> <p>14. 抗炎症薬</p> <p>15. ホルモン・ビタミン製剤</p> <p>16. 貧血および血液系疾患治療薬</p> <p>17. 感染症治療薬</p> <p>18. 抗悪性腫瘍薬</p> <p>19. 輸血製剤</p> <p>20. 一般検査</p> <p>21. 血液検査</p> <p>22. 生化学的検査</p> <p>23. 免疫学的検査</p> <p>24. 輸血検査</p> <p>25. 微生物検査</p> <p>26. 病理組織学的検査</p> <p>27. 遺伝子・染色体検査</p> <p>28. 生理機能検査1</p> <p>29. 生理機能検査2</p> <p>30. 後期試験</p>	
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新医療秘書医学シリーズ5「検査・薬理学」(建帛社)・「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)・「デルカン」(メディカ出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・小テスト・定期テストなどにより評価する。</p>	

科目名 公衆衛生学		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>公衆衛生の概念(定義、国の責務、領域と活動の特徴)と各分野の最新現状、法規、国際的動向について、歴史的経過とともに学ぶ。</p> <p>特に地球温暖化の影響、国際的な感染症の脅威、少子高齢化における医療と福祉制度の改革および情報社会に対する新しい体制について、学び共に考える。</p> <p>授業最後には、公衆衛生の倫理と社会規範、個人の尊厳について再確認する。</p> <p>実務経験 臨床検査技師・臨床病理士資格等を有し、大学病院等で勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは 2. 健康と環境、疫学的方法 3. 健康の指標 4. 感染症とその予防 5. 食品保健と栄養 6. 生活環境の保全 7. 医療・介護の保障制度 8. 地域保健活動 9. 母子保健、学校保健 10. 生活習慣病 11. 難病対策 12. 健康教育とヘルスプロモーション 13. 精神保健福祉、産業保健 14. これからの公衆衛生 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「わかりやすい 公衆衛生学」 (ヌーヴェル ヒロカワ)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・小テスト・定期テストなどにより評価する。	

科目名 医学・医療用語		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>保険診療の事務は、臨床医学のめざましい進歩と、複雑な診療報酬の制度の下煩雑化する一方である。この医療事務を能率的かつ円滑に進めるためには、かなりの医学知識が必要である。</p> <p>具体的に、業務として行うレセプトの作成や点検をするにあたり、カルテに記載されている内容を理解していなくてはならない。そのために必要な知識である、疾患名とその特徴、診断に必要な検査、さらに治療として行われる投薬などについて学習する。</p> <p>この授業では、疾患名などカルテに記載されている用語の読み方や意味、英語表記や略語などについて学び、また同時に医療秘書検定試験の合格を目指す。</p> <p>実務経験 臨床検査技師・臨床病理士資格等を有し、大学病院等で勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・診療機関に関する用語 2. 人体の名称 3. 薬に関する用語 4. 診療科別用語（各診療科にまたがる用語） 5. 診療科別用語（循環器科、呼吸器科） 6. 診療科別用語（消化器科、泌尿器科） 7. 診療科別用語（血液科、内分泌科） 8. 診療科別用語（アレルギー・膠原病科、脳神経科〈精神科含む〉） 9. 診療科別用語（産婦人科、整形外科） 10. 診療科別用語（感覚器系、感染症科） 11. その他の医学・看護用語 12. 検査に関する用語（血液検査、生化学検査） 13. 検査に関する用語（免疫検査、その他の検査） 14. 検査に関する用語（病理検査、画像検査） 15. 前期試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新医療秘書医学シリーズ5「医学用語」(建帛社)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・小テスト・定期テストなどにより評価する。</p>	

科目名 医療秘書実務		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>医療秘書とは何かを学ぶ。医療秘書の役割、仕事内容、コミュニケーション、医療秘書であるための心構えとホスピタリティ等について学び、医療に携わる者としての基本的な知識・技能を習得する。</p> <p>専門分化・高度化する医療機関の中で、チーム医療を円滑に行うためのコミュニケーション者としての医療秘書を目指し、医療秘書の役割・心構え、秘書的・事務的業務の内容を理解し、そのための知識や技能について学習し、パーソナリティ形成を目指す。</p> <p>実務経験 医療法人病院において、医療秘書・レセプトコンピュータ等のシステム設計・運用等。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療秘書としての自覚と心構え 2. 医療秘書の役割と社会的意味 3. 医療倫理 4. 医師事務作業補助者 5. 接遇の基本・身だしなみと言葉遣い 6. 受付対応の基本と心構え 7. 患者対応 8. 電話対応 9. 病棟業務 10. 診療録管理業務 11. 医療文書管理と作成 12. 医療秘書の一般業務 13. 総合実務演習 1 14. 総合実務演習 2 15. まとめ(試験) 			
[使用テキスト・参考文献] 「病院事務のための 医療事務総論/医療秘書実務」(建帛社) 「医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト」(日本能率協会マネジメントセンター)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況、定期試験、演習課題、授業への取り組み態度等により評価	

科目名 医療事務総論		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>医療事務の基本となる医療保険制度や医事関連法規などについて学び、将来医療秘書として活躍するための基礎知識を習得することを目標とする。</p> <p>医療事務とは何か、医療事務の仕事及び、医療制度・関連法規について概説する。医療保険制度は医療事務の根幹であるので、その理解に重点をおき、医療機関の役割・社会的使命や医療に関連法規、保険請求・窓口業務の基礎について説明する。</p> <p>実務経験 医療法人病院において、医療秘書・レセプトコンピュータ等のシステム設計・運用等。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事務とは 2. 医療機関の種類と組織 3. 診療の流れ(外来・入院) 4. 医療保険制度①: 医療保険の種類 5. 医療保険制度②: 医療保険の給付と負担率、高額療養費 6. 医療保険制度③: 保険外併用療養費 7. 後期高齢者医療制度 8. 公費負担医療制度 9. 労災、介護保険制度 10. 保険報酬請求業務 11. 診療録の管理・統計業務 12. 医療法 13. 医師法その他・療養担当規則 14. 個人情報保護と守秘義務 15. まとめ(試験) 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」(建帛社)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況、定期試験、小テスト、授業への取り組み・課題提出等により評価</p>	

科目名 医療事務演習 I・II		授業の種類 演習	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>医療事務の業務の一つに医療費の計算があります。 本講義では、基本的なカルテを理解し、外来の診療報酬明細書(レセプト)の作成を目指す。 医療秘書検定3級を目指すことで基本カルテをマスターする。</p> <p>実務経験 診療報酬請求事務能力認定試験等の資格を有し、医療機関等に勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 医療保険制度① 2. 医療保険制度②、点数と円の関係 3. 初診料の基本点数 4. 初診料のレセプトの書き方 5. 再診料の基本点数、外来管理加算 6. 再診料の加算、レセプトの書き方 7. 薬剤情報提供料、投薬(略語など) 8. 五捨五超入、内服、頓服 9. 外用、投薬のレセプトの書き方 10. 処方、調剤、調基 11. 特定疾患処方管理加算など 12. 復習(小テスト) 13. 注射の略語、筋注 14. 静注・アクア加算 15. 麻薬加算、生物学的製剤注射加算		16. 点滴注射 17. まとめ(小テスト) 18. 処置(ルゴール塗咽) 19. 創傷処置 20. 熱傷処置、関節腔内注射 21. 消炎鎮痛等処置 22. 創傷処理、抜糸 23. 手術料の時間外加算 24. 検体検査(尿検査) 25. 検体検査(血液学、生化学I検査) 26. 検体検査(免疫学、微生物学) 27. 検体検査(小テスト) 28. 生体検査、特定疾患療養管理料 29. 前期まとめ 30. 前期試験	
[使用テキスト・参考文献] 「診療点数早見表」2021年4月増補版(医学通信社)・「医科基本カルテ例題集〈外来編〉」・「医科応用カルテ例題集〈入院・外来編〉」(滋慶出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 医療事務演習Ⅲ		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>基本的なカルテを理解し、レセプトを作成できる。</p> <p>医療秘書検定3級を受験することで基本カルテをマスターする。</p> <p>実務経験 診療報酬請求事務能力認定試験等の資格を有し、医療機関等に勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 同日複数科初診・複数科再診 3. 眼科系の検査 4. 単純撮影 5. 単純撮影(方向撮影)、時間外緊急院内画像診断加算 6. 時間外の処置および手術、診療情報提供料 7. 造影剤使用撮影 8. 胃透視・特殊撮影 9. CTおよびMRI 10. CTおよびMRIの同一月の算定 11. 尿沈査とS-Mの併算定 12. 入院と外来の違い 13. 入院基本料 14. 後期まとめ 15. 後期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「診療点数早見表」2021年4月増補版(医学通信社)・「医科基本カルテ例題集〈外来編〉」・「医科応用カルテ例題集〈入院・外来編〉」(滋慶出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 医事コンピュータ演習 I		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ul style="list-style-type: none"> ●医療事務演習の講義にて、手書きのレセプトを学んだ後に、実際の実務に近いコンピュータを利用してカルテを理解します。 ●医療事務演習の講座で使用している基本カルテを使って、コンピュータに入力をしますので、復習にもなります。 ●外来症例を通して「医事コンピュータ検定試験3級」のレベルに達することを目標とします。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">実務経験</div> 診療報酬請求事務能力認定試験・診療情報管理士資格を有し、医療機関等に勤務。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 上書及び病名の入力 2. 基本診療料(初診料・再診料) 3. 投薬料(内服・頓服・外用) 4. 投薬料(特処、麻毒加算) 5. 注射料(筋注・静注) 6. 注射料(点滴) 7. 処置料(創傷処置、熱傷処置) 8. 処置料(消炎鎮痛等処置) 9. 手術料(時間外加算等) 10. 検査料(検体検査) 11. 検査料(生体検査) 12. 画像診断(X-P) 13. 画像診断(方向・分画) 14. CT、MRI 15. 後期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「医科基本カルテ例題集〈外来編〉」(滋慶出版)・「医事コンピュータ関連知識」(建帛社) 「医事コンピュータ技能検定問題集②(3級)」(つちや書店)・「診療点数早見表」2021年4月増補版(医学通信社)		〔単位認定の方法及び基準〕 試験にて評価	

科目名 情報処理 I ・ II		授業の種類 演習	
授業回数 30 回	時間数 (単位数) 60 (4 単位)	配当学年・時期 1 年前期・後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>マウスやキーボードの基本操作から始まり、ワープロソフトであるワード (Word)、表計算ソフトであるエクセル (Excel) の基礎を学習する。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 実務経験 </div> 製薬会社等において、タイピストとして勤務。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. Word の基本操作／タイピング練習 I 2. タイピング練習 II／漢字変換 3. 記号入力・ファンクションキー 4. 文章入力 5. 入力測定練習 6. 書式設定 (文字・段落) 7. 拡張書式設定 8. ページ罫線／ヘッダーとフッター 9. ワードアート/クリップアート 10. Word 復習テスト (書式設定まで) 11. ビジネス文書の作成 12. 表 (罫線) の作成方法 13. 表 (罫線) の書式設定 14. Word 復習テスト (総合) 15. Word まとめ／筆記テスト		16. 前期復習 (罫線) 17. 図形 18. Word 復習テスト (罫線・図形) 19. Excel の基本操作 20. データ入力／編集・削除 21. 計算式／コピー・移動 22. Sum・Average 関数 23. セルの書式設定 24. Excel 復習テスト (計算式まで) 25. Max・Min・IF 関数 26. 相対参照と絶対参照 27. グラフ機能 I 28. グラフ機能 II 29. Excel 復習テスト (総合) 30. Excel まとめ／筆記テスト	
[使用テキスト・参考文献] 「今すぐ使えるかんたん Word&Excel 2019」 (技術評論社)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題提出・テスト 等で評価します。	

科目名 人権//ライフゼミ I		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>皆さんが円滑な学校生活を送るために必要な知識と情報を提供します。</p> <p>また、これから社会人となっていく皆さんに、社会人として知っておくべきことや、就職、進学についても情報提供を行います。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. イントロダクション・ガイダンス 2. 個別面談 I 3. 個別面談 II 4. 学園祭について 5. 学園祭会議 I 6. 学園祭会議 II 7. 社会施設見学の事前学習 8. 学園祭会議 III 9. 学園祭会議 IV 10. 学園祭会議 V 11. 学園祭会議 VI 12. 学園祭会議 VII 13. 学園祭会議 VIII 14. 学園祭会議 IX 15. 前期試験		16. 学園祭の準備 I 17. 学園祭の準備 II 18. 学園祭の準備 III 19. 学園祭の準備 IV 20. 社会施設見学の事前学習 21. 社会施設見学の事後学習 22. 進学・就職について I 23. 医療事務実習報告会 24. 合同ライフゼミの準備 I 25. 合同ライフゼミの準備 II 26. 合同ライフゼミの準備 III 27. 合同ライフゼミ 28. 心理・医療事務科卒業研究発表会 29. 進学・就職について II 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・課題提出等で評価します。	

科目名 英語 I (編入対策)		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 選択
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>英語は大学編入だけではなく、企業の採用時に一般教養として出題されることも近年、多くなっています。中学・高校で学ぶ英語の基礎事項の確認・復習をしたうえで大学編入レベルの英語力を養いましょう。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>受講者の現状の英語力に応じて市販のテキストを使用します。中学・高校英語で忘れてしまったことや理解が十分でないところをきっちり穴埋めします。難しい文法用語は使わず、英文を読んで内容を理解できるようにします。文法の確認が早く済んだ場合は、長文読解を増やします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>中学・高校の基礎英語力を身に付けて、簡単な長文を読解できるようにします。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者の英語力の確認 2. am, is, are, was, were の使い分けや用法の確認 3. 一般動詞の規則の確認と why, when, what, how などの用法 4. 助動詞 5. 未来形、進行形、過去形 6. 完了形 7. 受動態、使役 8. to 不定詞、動名詞 9. 分詞 10. 関係代名詞 11. 重要構文 12. 接続詞 13. 長文にチャレンジ1 14. 長文にチャレンジ2 15. テスト 			
[使用テキスト・参考文献] 「ゼロから英文法が面白いほどわかる本」 (KADOKAWA)		[単位認定の方法及び基準] 出席、試験、受講態度	

科目名 検定試験対策 I		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 選択
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>医療秘書検定3級、医事コンピュータ3級を受験することで基本カルテをマスターする。</p> <p>レセプトを作成するのに、「診療点数早見表」を使用する。点数を調べる以外に、知識を問われる問題にも解答できるよう学ぶ。</p>			
<p>実務経験 診療報酬請求事務能力認定試験等の資格を有し、医療機関等に勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 検定取得目標、医療秘書検定3級 過去問題1 2. 医事コンピュータ検定3級 過去問題1 3. 医療秘書検定3級 過去問題2 4. 医療秘書検定3級 過去問題3 5. 医療秘書検定3級 過去問題4 6. 医療秘書検定3級 過去問題5 7. 医療秘書検定2級レベル問題1 8. 医療秘書検定2級レベル問題2 9. 医療秘書検定2級レベル問題3 10. 医療秘書検定2級レベル問題4 11. 医療秘書検定2級レベル問題5 12. 医療秘書検定2級レベル問題6 13. 医療秘書検定2級レベル問題7 14. 後期まとめ 15. 後期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「診療点数早見表」2021年4月増補版(医学通信社)・「医科基本カルテ例題集〈外来編〉」・「医科応用カルテ例題集〈入院・外来編〉」(滋慶出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 心理測定法 I・II		授業の種類 講義・演習	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>心理学は現象をデータ化し統計処理によってそこから意味を抽出する手法により、多くの心の法則を見出してきた。本講義では統計学の基礎的な考え方から、多変量解析に至るまで幅広く、かつ実用に耐え得る技能を身に付けるためEXCELを使用した演習を行う。</p>			
<p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 統計学とは 2. 統計学とはⅡ 3. 記号の読み方と用法 4. 代表値 5. 代表値Ⅱ 6. 散布度 7. 散布度Ⅱ 8. 正規分布 9. 分布の正規性 10. 分布の正規性Ⅱ 11. 回帰と相関 12. 回帰と相関Ⅱ 13. 統計的仮説検定 14. まとめ 15. 前期試験		16. 前期試験のふりかえり 17. 統計的仮説検定Ⅱ 18. χ 二乗検定 19. t検定 20. t検定Ⅱ 21. 分散分析① 22. 分散分析② 23. 具体的な例を用いた分析① 24. 具体的な例を用いた分析② 25. 具体的な例を用いた分析③ 26. 具体的な例を用いた分析④ 27. 具体的な例を用いた分析⑤ 28. 多変量解析 29. まとめ 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・実技・テスト等で評価します。	

科目名 認知心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>認知心理学は、人の認知の働き対象とし、実験を通して科学的に、人の心をとらえようとする学問である。近年、人の認知の働きを、脳の機能によってとらえようとする神経生理学アプローチも盛んに行われている。また、認知をテーマにしているため、感情や社会など関連領域も多い。</p> <p>本講義の前期では、認知心理学の基礎を扱う、後期では、認知をテーマにした関連領域を扱う。講義中に、心理学の実験研究を何度か体験してもらおう。学生は、人の認知的な機能について学んでもらい、心理学の手法や考え方になれること、そして心理学において自分の興味をみつけてほしい。また日常生活において心理学との接点を見つけ、さまざまな疑問を持ってほしい。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 心をとらえる(認知心理学とは) 2. 認知心理学の歴史 3. 認知心理学の研究的アプローチ 4. ～6. 感覚・知覚：脳と感覚器官 7. ～8. 注意：注意選択と抑制注意 9. ～12. 記憶：記憶の構造、学習 13. 学習と認知 14. まとめ 15. 定期テスト		16. 認知心理学の応用 17. ～18. 感情と認知：中枢起源と抹消起源 20. ～21. 認知発達 22. ～25. 社会と認知：帰属、認知バイアス 26. ～27. 認知とデザイン 28. 人工知能 29. まとめ 30. 定期テスト	
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 社会心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>心の働きはプラトンが靈魂(心)の働きを知・情・意に分類して以降、何ら変わっていない。個人の心理を研究する限り、我々はそれ以上の存在ではない。しかし、実際のところ我々人間は他者に対して、また環境に対して開かれた存在であり、常に変化し続ける存在である。社会心理学は、個人を超えて、他者との相互作用によって、我々がどのように変化するのかについて考究しようとする学問である。</p> <p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 社会心理学とは 2. 社会的知覚 3. 印象形成 4. 対人関係の認知 5. 対人魅力 6. 社会的自己 I 7. 社会的自己 II 8. ノンバーバルコミュニケーション 9. 社会的態度 10. 説得的コミュニケーション 11. ソーシャルスキル① 12. ソーシャルスキル② 13. ソーシャルスキル③ 14. 前期のまとめ 15. 前期試験		16. 前期のふりかえり 17. 攻撃行動① 18. 攻撃行動② 19. 援助行動 20. グループダイナミクス① 21. グループダイナミクス② 22. グループダイナミクス③ 23. グループダイナミクス④ 24. グループダイナミクス⑤ 25. グループダイナミクス⑥ 26. 集合行動 27. 流言 28. 流行 29. 後期のまとめ 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。	

科目名 犯罪心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>犯罪心理学とは、犯罪の原因を犯罪者の心理的側面から探り、解明すること、そして犯罪に関わる人々の心的作用を解明することを目的とした学問である。本講では、犯罪行動について心理的側面から焦点をあて、犯罪心理学の諸理論を概観するとともに、犯罪者の心理についての理解を深めていくことをめざす。加えて、近年、裁判員裁判が導入されたことにより、一層、世で起きている事件は私たちの身近なものとなった。どのようなプロセスを経て裁判が行われていくのかということや、被疑者、被害者、裁判員、そして一般市民の心理がいかんして判決に影響しているのか、そのメカニズムを理解することで「犯罪」にまつわるさまざまな問題について、心理学の観点から考えられるようになることを目的とする。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. オリエンテーション 2. 犯罪とは 3. 犯罪心理学とは 4. 司法制度 5. 犯罪の実態と統計 6. 犯罪心理学の歴史 7. 犯罪原因① 8. 犯罪原因② 9. 環境と犯罪 10. DVとハラスメント環境と犯罪 11. 犯罪プロファイリング 12. ポリグラフ検査 13. 被疑者の取調べ 14. 前期の復習 15. 前期試験		16. 裁判員制度とは 17. 裁判員制度に参加すること 18. 裁判員制度の問題 19. 刑罰と矯正 20. 少年事件と刑罰 21. 犯罪と社会復帰 22. 被害者と犯罪心理 23. 被害者は正しいのか？ 24. 目撃者証言① 25. 目撃者証言② 26. 民事事件と 27. 大衆とメディアと犯罪 28. 防犯意識 29. 後期の復習 30. 後期試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 カウンセリング心理学		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>本講義では、カウンセリング実践に関する多面的な学問である「カウンセリング心理学」について、理論的・体験的に学ぶことを通して、広く対人支援に関する基礎な方法を身につけることを目標とする。また、自分の日常生活にも活用できるような、カウンセリングのもつ独自の発想法に親しむことをねらいとする。</p> <p>実務経験 臨床心理士資格を有し、府下の子ども家庭センター・クリニック等で勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<p>第1回：オリエンテーリング 第2回：カウンセリングとは 第3回：精神分析療法 第4回：行動療法・認知療法 第5回：クライアント中心療法 第6回：フォーカシング指向心理療法 第7回：家族療法 第8回：交流分析 第9回：体験的カウンセリング演習① 第10回：体験的カウンセリング演習② 第11回：体験的カウンセリング演習③ 第12回：体験的カウンセリング演習④ 第13回：体験的カウンセリング演習⑤ 第14回：講義のまとめと質疑応答 第15回：後期試験</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 授業ごとに適宜レジュメを配布する。		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価する。	

科目名 臨床心理学実験実習 I ・ II		授業の種類 演習	
授業回数 30 回	時間数 (単位数) 60 (4 単位)	配当学年・時期 2 年前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>心理学は人間の心を理解するためにさまざまな検査(心理テスト)を開発してきた。それは、主観性や独善性を極力排除し、統計的な信頼性や妥当性を検討して作成された客観的な指標である。心理臨床では、このテストをクライアントの援助に役立てようとする。</p> <p>この講義では、代表的な心理テストを実際に体験してみることによってテストの実施法を習得する。</p> <p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
<p>1. WA I S - R①導入と知識</p> <p>2. WA I S - R②絵画完成～絵画配列</p> <p>3. WA I S - R③単語</p> <p>4. WA I S - R④積木模様</p> <p>5. WA I S - R⑤算数</p> <p>6. WA I S - R⑥組合せ</p> <p>7. WA I S - R⑦符号と類似</p> <p>8. NEO-P I - R 実施</p> <p>9. NEO-P I - R 結果の整理</p> <p>10. NEO-P I - R 解釈</p> <p>11. 内田クレペリン精神作業検査①実施</p> <p>12. 内田クレペリン精神作業検査②結果の整理</p> <p>13. 内田クレペリン精神作業検査③判定と解釈</p> <p>14. 前期のまとめ</p> <p>15. 前期試験</p>		<p>16. ロールシャッハテスト①実施法</p> <p>17. ロールシャッハテスト②実施法</p> <p>18. ロールシャッハテスト③記号化</p> <p>19. ロールシャッハテスト④記号化</p> <p>20. ロールシャッハテスト⑤記号化</p> <p>21. ロールシャッハテスト⑥記号化</p> <p>22. ロールシャッハテスト⑦記号化</p> <p>23. ロールシャッハテスト⑧記号化</p> <p>24. ロールシャッハテスト⑨ 構造一覧表の作成</p> <p>25. ロールシャッハテスト⑩ 構造一覧表の作成</p> <p>26. ロールシャッハテスト⑪ 構造一覧表の作成</p> <p>27. ロールシャッハテスト⑫解釈</p> <p>28. ロールシャッハテスト⑬解釈</p> <p>29. ロールシャッハテスト⑭解釈</p> <p>30. 後期試験</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況・授業時の態度・実技・テスト等で評価します。</p>	

科目名 健康心理学 I・II		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>健康心理学とは、心身の健康における諸問題に対し、心理学的なアプローチをはかり、健康で幸福な人生を実現するための学問である。</p> <p>本授業では、①健康心理学についての理解を深め、②健康心理学の知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につける、ことを目指します。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. オリエンテーション 2. 健康心理学とは 健康とは何か 3. 健康心理学の特徴と基礎理論 4. 生活習慣と健康 5. ストレスに関するところとからだ① 6. ストレスに関するところとからだ② 7. ストレスに関するところとからだ③ 8. ストレスマネジメント① 9. ストレスマネジメント② 10. ストレスマネジメント③ 11. 食行動と健康 食事と心理的効果 12. 運動と健康 運動習慣と心理的効果 13. 休養と健康 ワークライフバランス 14. 健康的な生活習慣をつくるために 15. 試験		16. パーソナリティと健康① 17. パーソナリティと健康② 18. パーソナリティと健康③ 19. 各発達段階における健康 ① 周産期～乳幼児期 20. ② 児童期・学童期 21. ③ 思春期 22. ④ 青年期 23. ⑤ 成人期 24. ⑥ 中年期 25. ⑦ 老年期 26. 災害時の健康 27. 喪失体験と健康 28. バーンアウトの心理学 29. 自分の健康づくり 30. 試験	
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・課題提出 テスト等で評価します。	

科目名 芸術療法		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術療法概論(定義・歴史・素材・対象者・理論的背景) 2. 芸術療法のいろいろ 3. 心理療法と投射法テスト 4. 芸術療法をする上での留意点 5. 箱庭療法 <p>・様々な演習・実習を中心に進めていきます。その都度、理論の解説を行います。 ・授業の進行によりワークを変更することもあります。</p> <p>実務経験 子育て支援相談施設主宰。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーリング「旗作り」 2. 作品制作を通しての自己理解(私の木) 3. 対人地図 4. 芸術療法 概論Ⅰ 5. コラージュ法1回 6. コラージュ法2回 7. コラージュ法3回 8. コラージュ療法 概論、解説、応用 9. カウンセリングと心理療法 10. 心理療法の中の芸術療法 11. 描画による投影法テスト① 12. 描画による投影法テスト② 13. 子どもの描画発達 14. 画材実習 15. まとめ 試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] レジュメを配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 精神保健論		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神医学の基礎。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 現代の代表的な精神疾患について、原因、病理、症状、経過、治療などをわかりやすく解説する。 学生の質問も歓迎する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神医学の基礎的な知識の理解と習得。</p> <p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の歴史① 2. 精神保健の歴史② 3. 統合失調症① 4. 統合失調症② 5. 統合失調症③ 6. 気分障害 7. アルコール関連問題① 8. アルコール関連問題② 9. 神経症① 10. 神経症② 11. 人格障害 12. その他の精神疾患 13. 発達障害及び高齢者の心理 14. まとめ 15. 前期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 適宜プリントを配布する。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期テストを中心に総合的に評価する。</p>	

科目名 医事コンピュータ演習Ⅱ		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<ul style="list-style-type: none"> ● 1年次に学んだ外来症例を元に3級の検定対策の授業を行う。 目標は、「医事コンピュータ検定試験3級」のレベルに達すること。 ● 入力だけでなく、医事学科問題、コンピュータ知識問題の演習を行う。 ● 検定終了後は入院症例を中心に「医事コンピュータ検定試験2級」レベルの練習問題を行う。 ● 就職先の病院をイメージした症例で、実務に対応できる力をつける。 <p>実務経験 診療報酬請求事務能力認定試験・診療情報管理士資格を有し、医療機関等に勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医事コンピュータ検定3級(伝票形式)の説明 2. 医事コンピュータ検定3級(診療録形式)の説明 3. 医事コンピュータ検定3級(過去問題)1 4. 医事コンピュータ検定3級(過去問題)2 5. 医事コンピュータ検定3級(過去問題)3 6. 医事コンピュータ検定3級(過去問題)4 7. 医事コンピュータ検定3級(模擬試験)1 8. 医事コンピュータ検定3級(模擬試験)2 9. 医事コンピュータ検定3級(自己採点) 10. 入院カルテの登録(入院料・食料) 11. 入院カルテ(バッチ入力)の説明 12. 医事コンピュータ検定2級(過去問題)1 13. 医事コンピュータ検定2級(過去問題)2 14. 医事コンピュータ検定2級(過去問題)3 15. 後期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「医事コンピュータ関連知識」(建帛社)「医事コンピュータ技能検定問題集②(3級)」(つちや書店)「診療点数早見表」2020年4月版(医学通信社)「医事コンピュータ技能検定試験2級過去問題集」(ケアネットコミュニケーション)		[単位認定の方法及び基準] 試験にて評価	

科目名 診療情報管理論 I・II		授業の種類 講義		
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修	
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>【前期】 診療情報、診療記録についての基本的知識、用語、方法について学ぶ。医療現場では毎日膨大な診療情報が発生している。その価値や意義、重要性について、さらに ICD については前期で概要を学習し、後期のコーディング演習授業に備える。診療情報管理業務の具体的内容をカルテやフィルムの現物を交えて理解する。</p> <p>【後期】 病院実習報告により実地と学問の違いを肌で感じてもらう。医療過誤・医療事故・医事紛争事例を通して診療情報管理に関わる法規を学ぶ。また、医療機能評価、がん登録、医療安全管理と感染対策について、さらに救急・災害医療の視点から診療情報管理を学ぶ。診療情報管理におけるデータ分析や統計業務について必要な専門知識を理解し、得た情報の活用方法を学習する。また、個人情報保護とインフォームドコンセントについて理解を深める。</p> <p>【実務経験】 診療情報管理士資格を有し、府下の医療法人・社会医療法人等で勤務。</p>				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療情報管理の歴史と意義 2. 診療情報管理の組織・業務・立ち位置 3. 診療記録の種類と記載とその保管 4. 診療記録の回収・点検 5. 退院サマリーとは 6. 退院サマリーを読む(実例を元に) 7. 診療記録の記載形式 1 看護記録と POS/PORM 8. 診療記録の記載形式 2 クリニカルパス 9. 国際疾病分類 ICD の概要 10. ICD コーディングの実際 11. 医師事務作業補助者と診療情報管理士 12. 医療の質管理について 13. 院外活動で学ぶ診療情報管理士実務(学会・研修・メーリングリストへの参加等) 14. 病院実習前の心構えとその意義 15. まとめ 		<ol style="list-style-type: none"> 16. 医療法の目的・理念、医療施設について 17. 感染症法とコトワにおける対策等 18. 病院実習報告(経験の共有とその意義) 19. 医療関連職種の法(免許・業務・義務)と関連法規について 20. 労災・交通事故関連法について 21. 医療現場の安全管理と感染対策 22. ヒューマンエラーと医療事故・過誤・紛争、医事紛争の現状と対策について 23. 救急医療と診療情報管理 24. 個人情報保護法・守秘義務・情報開示 25. 診療情報管理におけるデータ活用(様々なビッグデータ) 26. 近年のインフォームドコンセントについて 27. 電子カルテシステムとその功罪、災害医療との関わり 28. 近年のがん対策とがん登録の規約・実務について 29. 医療機能評価とは 30. まとめ 		
〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 定期試験(70%)、授業への取り組み態度(30%)により総合評価		

科目名 疾病コーディング演習		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>疾病分類（ICDコーディング）は診療情報管理業務の中でも専門性の高い領域とされている。近年、電子カルテを中心とする診療情報・病歴管理を目的として開発された「ICD10対応標準病名マスター」がその業務の一端を担うようになって久しいが、未だ改訂の途上にあり、研鑽を積んだ人の手で最終的なコーディングチェックをしているという現実がある。</p> <p>この授業ではICDのコーディングルールに則った演習を行い、基本方法の習得を目指すとともに、医学的知識を深めることをねらいとする。さらに、実際のサマリーやDPC入力支援ソフトに登録された資料を元に、より確実に現場に即した学習に努める。</p> <p>実務経験 診療情報管理士資格を有し、府下の医療法人・社会医療法人等で勤務。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICD前期で学んだおさらいとコーディングの基本ルール 「注釈、略語、記号、関連用語」の意味 2. 感染症のコーディング演習 3. 新生物のコーディング演習 4. 血液・内分泌疾患のコーディング演習 5. 精神疾患のコーディング演習 6. 神経疾患のコーディング演習 7. 感覚器(眼・耳)疾患および先天奇形のコーディング演習 8. 循環器疾患のコーディング演習 9. 呼吸器疾患のコーディング演習 10. 消化器疾患のコーディング演習 11. 皮膚・皮下組織の尿路性器系のコーディング演習 12. 筋骨格系および結合組織疾患のコーディング演習 13. 妊娠・分娩・産褥、周産期の病態のコーディング演習 14. 損傷、中毒、その他外因の影響に関するコーディング演習 15. まとめ <p>※前半は病名に特化したコーディング、中盤からサマリーを用いたコーディング演習となります</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 レジュメを配布</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 定期試験（70%）、授業への取り組み態度（30%）により総合評価</p>	

科目名 医師事務作業補助実務 演習		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題] 医師の指示のもと医療文書作成などの代行を行う医師事務作業補助者としての基礎を習得する。 医師事務作業補助とは何か、その役割、業務内容、必要な知識について概説する。また、診療録やオーダーの代行入力、各種診断書・証明書、処方せん等の医療文書作成、等、医師事務作業補助業務に必要な技能を演習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 実務経験 </div> 医療法人病院において、医療秘書・レセプトコンピュータ等のシステム設計・運用等			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関で勤務する人たち、医師の業務と医師事務作業補助者の役割 2. 医療関連法規、個人情報保護 3. 保険診療・医療保険 4. 介護保険 5. 外来と入院、診療録1 6. コーディング 7. DPC/PDPS 8. 電子カルテと診療録記載 9. クリニカルパスとサマリー 10. 診療情報提供書 11. 各種診断書 12. 医療安全対策と感染対策 13. 医療用語 14. 薬剤管理と臨床検査 15. まとめ(試験) 			
[使用テキスト・参考文献] 「医師事務作業補助者のための32時間 教本」(洋学社)		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習課題、授業への取り組み 態度により総合評価	

科目名 社会福祉概論		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>私たちはこの社会で誰かを助け、誰かに助けられながら生きている。これを制度や理論として存在させると「社会福祉」になる。つまりこの授業は、社会人として、この世の中で上手に助け合いをするための制度や仕組みを学ぶものである。</p> <p>また、カウンセラーなどの心理職と社会福祉職の対象者は重なっていることも多く、よって協同して働く機会も多い。社会福祉の勉強は、対人援助職をめざす学生にとって、将来の仕事に役立つと思われる。</p> <p>実務経験 社会福祉法人、学童保育施設等において勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは 2. 社会福祉の原則 3. 社会福祉の原則 4. 社会福祉の歴史 5. 社会福祉の歴史 6. ニーズとは 7. 子ども家庭分野 8. 障がい者分野 9. 高齢者分野 10. 低所得支援 11. 更生保護 12. 地域福祉 13. 社会保障制度 14. まとめ 15. テスト 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 適宜レジュメを配布</p>		<p>単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業時の態度・テスト等で評価する。</p>	

科目名 介護概論		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する。 ・入所系、居宅介護の援助方法について把握する。 ・高齢者、障害者（児）への援助の目的と機能を理解する。 ・介護保険制度、介護報酬請求事務の内容を理解する。 <p>実務経験 社会福祉法人、学童保育施設等において勤務。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容についてのオリエンテーション 2. 介護福祉士の役割と機能について① 3. 介護福祉士の役割と機能について② 4. 介護福祉士の役割と機能について③ 5. 高齢者、障害者への支援方法について① 6. 高齢者、障害者への支援方法について② 7. 高齢者、障害者への支援方法について③ 8. 高齢者、障害者への支援方法について④ 9. 高齢者、障害者への支援方法について⑤ 10. 高齢者、障害者への支援方法について⑥ 11. 高齢者、障害者への支援方法について⑦ 12. 高齢者、障害者への支援方法について⑧ 13. 高齢者、障害者への支援方法について⑨ 14. まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 適宜レジュメを配布。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況、授業態度、課題の提出、テストなどにより評価します。</p>	

科目名 卒業研究		授業の種類 演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>本校の学びの集大成として、卒業論文を作成する。心理・医療事務科の特色を十分に生かして、自由にテーマを決め、オリジナリティ溢れる学びを深めてもらいたい。</p> <p>実務経験 奈良県内の保健所附属施設において、精神保健福祉相談員として勤務等。臨床心理士・公認心理師資格を保有。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマを決める 3. 先行研究の検索① 4. 先行研究の検索② 5. 論文の要旨作成 6. 研究デザインの作成① 7. 研究デザインの作成② 8. 実験及び調査の準備① 9. 実験及び調査の準備② 10. 結果の整理① 11. 分析① 12. 分析② 13. 考察① 14. 考察② 15. 卒業論文提出 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>毎回レジュメを配布</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 進路対策		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>希望する就職や進学に成功するためのキャリアサポートを目的としている。 就職活動のノウハウや、大学編入学試験などの状況を知り、各自が試験に合格できる力を養うために個人ワークを中心に授業を進めていく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 求人の状況と採用試験、大学3年次編入の状況 2. 一般教養① 3. 一般教養② 4. 一般教養③ 5. 一般教養④ 6. 一般教養⑤ 7. 履歴書の書き方① 8. 履歴書の書き方② 9. 作文① 10. 作文② 11. 面接① 12. 面接② 13. 面接③ 14. 面接④ 15. 前期試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>毎回レジュメを配布する</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。 私語は認めません。</p>	

科目名 人権//ライフゼミⅡ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>学生が円滑な学校生活を送るために必要な知識と情報を伝えます。 2年次においては社会人の基礎となる「自己管理」力を身につけ、 目標とする進路に向かって、個別に対策を考えて実行します。 また、クラス委員の役割などを通して、自覚と責任感、行動力を持って もらいます。 卒業までの1年間を実りあるものにしてください。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人面談を随時行います。 ・ 進路指導の一環として「小論文」や「作文」を書いていきます。 ・ 就職・進学希望者いずれにも面接の練習を行います。 ・ クラス委員を中心に学内行事の企画・運営について検討し、実施します。 ・ 時期に応じて学内生活及び進路活動に必要な情報を伝えます。 ・ その他 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・態度・課題の提出により評価 します。	

科目名 受験対策（小論文）		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数（単位数） 30（2単位）	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい] 大学の心理学系専攻に3年次編入するために必要な専門知識を学びます。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 心理学全般の知識を総括的に学びます。専門用語の習得はもちろんのこと、論述試験にも耐えうる文章記述能力の養成も行います。また、志望校の選択をはじめとする進路指導も行います。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 編入試験に合格できるだけだけの心理学の専門知識の習得。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法 2. 治療構造論 3. 心理アセスメント 4. 心理検査 5. 発達臨床 6. コミュニティー心理学 7. 精神医学の診断基準 8. 精神疾患 9. ウェクスラー式知能検査 10. 精神分析関係 11. Freud, S.以降の精神分析 12. 家族システム論 13. 心理臨床の倫理 14. 臨床心理学の学問的特質 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 毎回レジュメを配布		[単位認定の方法及び基準] 出席、試験の成績、授業態度	

科目名 英語Ⅱ（編入対策）		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数（単位数） 30（2単位）	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい] 大学の心理学系専攻に3年次編入するために必要な英語の基礎を学びます。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 高校英語のセンター試験レベルの問題に取り組みます。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 編入試験に合格できるだけの英語力の習得。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の歴史 2. 条件づけ 3. 記憶 4. ストレス 5. 知能テスト 6. 心理療法 7. 愛着 8. 生得論と経験論 9. 知覚 10. パーソナリティー 11. 逆転移 12. 情動 13. 信頼性と妥当性 14. 青年期の精神医学的アセスメント 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 毎回レジュメを配布		[単位認定の方法及び基準] 出席、毎回の確認テストの成績、試験の成績、授業態度	

科目名 検定試験対策Ⅱ		授業の種類 講義		
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 選択	
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕				
<p>医療秘書検定2級、医事コンピュータ2級を受験することで入院レセプトをマスターする。</p> <p>レセプトを作成するのに、「診療点数早見表」を使用する。点数を調べる以外に、知識を問われる問題にも解答できるよう学ぶ。</p> <p>実務経験 診療報酬請求事務能力認定試験等の資格を有し、医療機関等に勤務。</p>				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療秘書検定2級 過去問題1 2. 医療秘書検定2級 過去問題2 3. 医療秘書検定2級 過去問題3 4. 医療秘書検定2級 過去問題4 5. 医療秘書検定2級 過去問題5 6. 医療秘書検定2級 過去問題6 7. 医療秘書検定2級自己採点 8. 医療秘書検定準1級レベル問題1 9. 医療秘書検定準1級レベル問題2 10. 医療秘書検定準1級レベル問題3 11. 医療秘書検定準1級レベル問題4 12. 医療秘書検定準1級レベル問題5 13. 医療秘書検定準1級レベル問題6 14. 前期まとめ 15. 前期試験 				
〔使用テキスト・参考文献〕 「診療点数早見表」2020年4月版(医学通信社)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。		

科目名 検定試験対策Ⅲ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 選択
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>保険診療の事務は、臨床医学のめざましい進歩と、複雑な診療報酬の制度の下煩雑化する一方である。この医療事務を能率的かつ円滑に進めるためには、かなりの医学知識が必要である。</p> <p>具体的に、業務として行うレセプトの作成や点検をするにあたり、カルテに記載されている内容を理解していなくてはならない。そのために必要な知識である、疾患名とその特徴、診断に必要な検査、さらに治療として行われる投薬などについて学習する。</p> <p>この授業では、基礎医学、臨床内科学、臨床外科学、検査・薬理学、医療用語を総復習し、医療秘書検定試験2級の合格を目指す。</p> <p>実務経験 臨床検査技師・臨床病理士資格等を有し、大学病院等で勤務。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療秘書検定過去問題2級の解答解説および関連問題について 2. 医療秘書検定過去問題2級の解答解説および関連問題について 3. 医療秘書検定過去問題2級の解答解説および関連問題について 4. 医療秘書検定過去問題2級の解答解説および関連問題について 5. 医療秘書検定過去問題2級の解答解説および関連問題について 6. 医療秘書検定2級 模擬試験1 7. 医療秘書検定2級 模擬試験2 8. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 9. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 10. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 11. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 12. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 13. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 14. 医療秘書検定過去問題準1級の解答解説および関連問題について 15. 前期試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)・「デルカン」(メディカ出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・小テスト・定期テストなどにより評価する。</p>	

科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>人間を理解し、広く人間をとらえ、謙虚に人から学ぶことの基礎築きます。そして、「福祉の目」を養い、人間の尊厳とは何か、その大切さを学びます。また、人間としての自立・自律とはなにか、生活と自立・自律について学び、介護福祉士として、自立・自律を支える介護の基礎を学びます。そこには、介護における倫理的課題やその具体的内容の理解についても学びます。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳とは 2. 人間の尊厳と利用者主体 3. 人間思想の潮流とその具現化① 4. 人間思想の潮流とその具現化② 5. 人権や尊厳に関する日本の諸定義 6. 社会福祉領域での福祉理念の変遷① 7. 社会福祉領域での福祉理念の変遷② 8. 人権尊重と権利擁護① 9. 人権尊重と権利擁護② 10. 自立のあり方 11. 自立とは 12. 介護を必要とする人々の自立と自立支援 13. 介護を必要とする人々の尊厳保持と自立、自立支援の関係性 14. まとめ 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座①「人間の理解」(中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 人間関係とコミュニケーション A		授業の種類 講義	
授業回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2 単位)	配当学年・時期 1 年後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>人間関係のなかで、自分と他者を理解することは、自分自身を自己覚知し、自己開示についても学ぶ必要がある。人の発達にともなう、人間関係の広がりや他者や集団とのかかわりからの成長、コミュニケーションの特性や構造を学ぶ。</p> <p>対人援助関係での、円滑なコミュニケーションの基礎や配慮について学ぶ。組織におけるコミュニケーションとして、組織での情報の流れを理解し、どのようなコミュニケーションが求められるかを学ぶ。</p>			
<p>実務経験 府下の介護老人保健施設等での勤務の後、社会福祉士会監事・理事を歴任。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と人間関係 人間らしさ、自分と他者の理解 2. 発達心理学からみた人間関係 3. 社会心理学からみた人間関係 4. 人間関係とストレス 5. コミュニケーションの概念 6. コミュニケーションの基本構造 7. コミュニケーションの手段 8. 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション 9. 対人援助における基本的態度 10. 援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則 11. 組織の条件とコミュニケーションの特徴 12. 組織における情報の流れ 13. 組織において求められるコミュニケーション 14. まとめ 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座①「人間の理解」(中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 社会と制度の理解 I		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>生活を幅広くとらえ、生活の基本機能やライフスタイルの変化、家族機能の役割や社会・組織の機能の役割を理解し、地域社会における生活支援について学ぶ。また、地域福祉の発展と地域共生社会や地域包括ケアについて学ぶ。</p> <p>社会保障制度の考え方を学び、日本における社会保障制度の仕組みについて学ぶ。</p>			
<p>実務経験 府下の介護老人保健施設等での勤務の後、社会福祉士会監事・理事を歴任。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活を幅広くとらえる・生活の基本機能 2. ライフスタイルの変化・家族の機能と役割 3. 社会・組織の機能と役割 4. 地域・地域社会・地域社会における生活支援 5. 地域福祉の発展・変化 6. 地域共生社会 7. 地域包括ケア 8. 社会保障の基本的な考え方 9. 日本における社会保障の発展と仕組み 10. 年金 11. 医療保険 12. 雇用保険と労働者災害補償保険 13. 各種社会扶助 14. 現代社会と社会保障制度 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座②「社会の理解」 (中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 社会と制度の理解 II		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>高齢者保健福祉と介護保険や障害者保健福祉や障害者総合支援制度を理解する。</p> <p>① 高齢者保健福祉について。 ② 介護保険制度について。 ③ 障害者保健福祉と障害者総合支援制度。 ④ 介護実践にかかわる諸制度について理解する。</p> <p>実務経験 府下の介護老人保健施設等での勤務の後、社会福祉士会監事・理事を歴任。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者保健福祉の動向 2. 高齢者保健福祉に関連する法体系 3. 介護保険制度の創設の背景と目的 4. 介護保険制度のしくみ 5. 介護保険制度にかかわる組織とその役割 6. 介護保険制度における専門職の役割 7. 介護保険制度の動向 8. 障害者保健福祉の動向 9. 障害者保健福祉に関連する法体系 10. 障害者総合支援制度のしくみ① 11. 障害者総合支援制度のしくみ② 12. 個人の権利を守る制度・施策 13. 保健医療・貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 14. 地域生活を支援する制度・施策 まとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座②「社会の理解」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 ビジネス実務		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>デジタル社会になっても人間関係はビジネスに不可欠である。 あいさつ、言葉遣い、来客応対など社会で必要なビジネス慣習やマナーなどの 全般知識を学ぶ。その上でビジネス能力検定ジョブパス3級の合格を目指す。 ビジネス能力検定ジョブパス対策に取り組み、机上で学んだことが就職活 動や社会人になって実際に役に立つよう実技やロールプレイング中心の授業 をする。</p> <p>実務経験 マナー会社の専任講師として、大学等での指導歴を有する。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアと仕事へのアプローチ（働く意識） 2. 仕事の基本となる8つの意識 3. コミュニケーションとビジネスマナーの基本 4. 指示の受け方と報告・連絡・相談 5. 話し方と聞き方のポイント 6. 来客応対と訪問の基本マナー 7. 仕事への取り組み方（パソコンは仕事の基本） 8. ビジネス文書の基本（社内文書・社外文書・電子メールの書き方） 9. 施設研修への礼状の書き方 10. 電話対応の重要性（かけ方と受け方） 11. 電話対応の重要性（携帯電話のマナー） 12. 統計・データの読み方、インターネット・新聞からの情報収集 13. 会社関係での付き合い（冠婚葬祭の基本） 14. 会食のマナー（お箸の扱い方・茶菓のマナー） 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式 テキスト」「ビジネス能力検定ジョブパス 3級公式試験問題集」（日本能率協会マネ ジメントセンター） 「ビジネスでの常識集」（トータルマナー）		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・課題提出・実 技・テスト等で評価します。	

科目名 人権//ライフゼミ I		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士としての人権意識について理解させる。 ・ クラスという集団での自己と他者の理解をさせる。 ・ 学校生活における活動について理解させる。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を知る 仲間を知る ・ クラスとしての役割をきめる ・ 介護福祉士としての人権意識を身につける ・ 人としての自分と、介護福祉士としての自分をつくり、社会人として自分づくりをする。 ・ 学校行事の企画、実施 ・ 大阪国際福祉専門学校 介護福祉科1年としての自覚と対応について <p>※前期及び後期の最終授業で試験を実施する。</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・課題提出等で評価します。	

科目名 介護の基本 I A		授業の種類 講義	
授業回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2 単位)	配当学年・時期 1 年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての基本的視点を学びます。 ・生活とは何かを理解し、介護を必要とする人を理解し、介護が必要な人の生活、サービスなどについて学びます。 ・「自身が目指す介護福祉士とは」を考え、介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能および自己に求められる課題を把握する。 			
実務経験 社会福祉法人において介護福祉士として勤務。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 介護を必要とする人の理解・その人らしさと介護 3. 生活を支えるサービス 4. 高齢者のためのサービス 5. 障害者のためのサービス 6. 地域連携とは 7. 地域とのつながり 8. 地域連携 9. 多職種連携について 10. 介護の場での多職種連携 11. 多職種の役割と機能について 12. 家族への支援 13. 利用者の尊厳と介護 14. まとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座④「介護の基本Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル 2021」（中央法規出版）		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>介護福祉士の成り立ちや根拠法について学びます。 専門職としての介護福祉士の役割や機能、倫理について学びます。 介護福祉士の働く場について学びます。 チームアプローチの意義や地域連携の意義について学びます。</p> <p>実務経験 ・社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
1. 授業についてのオリエンテーション 2. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ 3. 介護問題の背景と介護福祉士制度 4. 求められる介護福祉士像 5. 社会福祉士法及び介護福祉士法の目的と概要 6. 介護福祉士に関連する諸規定 7. 専門職能団体がもつ役割と機能Ⅰ 8. 専門職能団体がもつ役割と機能Ⅱ 9. 専門職能団体としての介護福祉士会 10. 倫理とは 11. 介護実践における倫理 12. 居宅系サービス提供の場とその特性 13. 入所系サービス提供の場とその特性 14. まとめ 15. 前期試験		16. 介護サービスとケアマネジメント 17. 介護サービスの歴史的変遷と時代背景 18. 多様化する介護サービスと提供の場 19. 多職種連携の意義と目的 20. 協働職種の機能と役割Ⅰ 21. 協働職種の機能と役割Ⅱ 22. 利用者を取り巻く多職種連携の実際 23. 地域連携の意義と目的 24. 地域連携に関わる機関の機能と役割 25. 介護における安全の確保とリスクマネジメントⅠ 26. 介護における安全の確保とリスクマネジメントⅡ 27. 介護従事者の健康と安全Ⅰ 28. 介護従事者の健康と安全Ⅱ 29. まとめ 30. 後期試験	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士養成講座③「介護の基本Ⅰ」・最新介護福祉士養成講座④「介護の基本Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 コミュニケーション 技術 A		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>利用者や家族との信頼関係を構築するために、コミュニケーションは大事であることを学びます。 コミュニケーションを用いて、チーム間の情報の共有や連携の仕方を学びます。 情報の保護と管理について学びます。</p> <p>実務経験 介護施設代表取締役。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を豊かにするストローク 1 2. 人間関係を豊かにするストローク 2 3. 聞き方・話し方の基本 1 4. 聞き方・話し方の基本 2 5. チームのコミュニケーション 介護における記録の意義と目的 6. 記録の書き方と留意点 7. 記録の管理 8. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 1 9. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 2 10. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 3 11. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 4 12. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 5 13. 報告と申し送り 14. 会議の持ち方の基本 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑤「コミュニケーション技術」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します	

科目名 コミュニケーション 技術 B		授業の種類 演習	
授業回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2 単位)	配当学年・時期 1 年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>コミュニケーションの基本を学びます。 利用者や家族・職場において信頼関係を構築する為に必要なスキルを徹底して学びます。様々な演習を行う事でコミュニケーションの大切さとチーム間の情報の共有や連携に繋げるようにしていきます。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 実務経験 </div> 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本は自己紹介から 偏愛マップ 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 3. コミュニケーションスキル 自己覚知と他者理解 4. コミュニケーションスキル 傾聴と受容 5. コミュニケーションスキル 共感 6. 対人距離を使ったコミュニケーション 7. 言語 非言語 準言語コミュニケーションとは 8. 意欲を導き出すコミュニケーション技術 9. リフレージング ストレングス変換 10. 集団におけるコミュニケーション 11. 回想法 12. 意思決定におけるコミュニケーション技術 13. コミュニケーションのまとめ 14. 前期試験テスト対策 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑤「コミュニケーション技術」(中央法規出版) 都度レジュメ等配布		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します	

科目名 生活支援技術 I		授業の種類 講義・演習・ 実習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援とは何かを理解し、それらに伴う居住環境の整備の方法や家庭生活に関わる基本的な知識・技術を学ぶ。 また、家事的な介護技術を中心に、講義・実習・演習を交えて技術を習得する。 介護を必要とする利用者の、移動・移乗の意義と目的について学ぶ。 また、利用者の障害や疾病の状況に応じた介助方法についても学ぶ。 <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 生活支援とはなにか 住まいの役割と機能 高齢者と障害者の住まい 居住環境の整備 快適な室内環境① 快適な室内環境② 自立した移動とは(ボディメカニクス) 移動・移乗の基本的理解 体位変換の介助の実際 安全安楽な車イスの介助 歩行の介助 住環境の整備・移動の介護の多職種連携 まとめ 試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術 I」・最新介護福祉士養成講座⑦「生活支援技術 II」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル 2021」(中央法規出版)		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題] 介護を必要とする利用者の、身じたく・口腔ケアの意義と目的について学ぶ。 また、利用者の障害や疾病の状況に応じた介助方法についても学ぶ。 実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. オリエンテーション 2. 自立した身じたくとは 3. 衣服の役割 4. 利用者の状態に応じた衣服の着脱 5. 衣服の着脱の介助① 6. 衣服の着脱の介助② 7. 衣服の着脱の介助③ 8. 口腔ケアとは 9. 口腔ケアの効果 10. 歯磨きの介助 11. 口腔清拭法 12. 義歯の清掃法 13. まとめ 14. まとめ 15. 試験			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」・最新介護福祉士養成講座⑦「生活支援技術Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル 2021」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題] <ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする利用者の、食事・入浴・排泄の意義と目的について学ぶ。また、利用者の障害や疾病の状況に応じた介助方法についても学ぶ。 ・人間の尊厳を重視した排泄介助について学ぶ。 <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の意義目的 2. 自立に向けた食事の介護 3. 利用者の状態に応じた食事の介助 4. 誤嚥の予防のための支援 5. 自立した入浴・清潔保持 6. 入浴の介助 7. 清潔保持の介助 8. 利用者の状態に応じた入浴清潔の介助 9. 自立した排泄とは 10. 人間の尊厳にかかわる排泄介護 11. 利用者の状態に応じた排泄の介助① 12. 利用者の状態に応じた排泄の介助② 13. まとめ 14. まとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」・最新介護福祉士養成講座⑦「生活支援技術Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 講義・演習・ 実習		
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修	
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]				
<p>障害が軽く、介護の度合いの低い人への支援を含む、生活支援技術の基本を学びます。</p> <p>生活支援とは何かを理解し、それらに伴う居住環境の整備の方法や家庭生活に関わる基本的な知識・技術を学びます。</p> <p>また、家事的な介護技術を中心に、講義・実習・演習を交えて技術を習得します。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介 食事とは何か? これからの流れ 2. 食事から考えられる介護の視点 3. 五感と食事の関係性 4. 五大栄養素 5. 人はどうしてカルシウム不足になるのか? 6. 生活支援技術講義 洗濯 7. 生活支援技術講義 掃除 裁縫 8. 生活支援技術講義 ゴミだし 買い物 9. 調理実習 孫は優しい献立作り 10. 調理実習 11. 家庭生活におけるアセスメント 12. 食事介助にかかる時間と温度変化 13. 家事的介護における多職種との連携 14. 期末テスト対策 15. 期末テスト 				
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。		

科目名 生活支援技術Ⅴ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要な様々な状況を理解し、その介護方法・対応方法について学ぶ。 ・実習で学んだ介護技術を振り返る。 ・基本をもとに応用をいかし、利用者・介護者ともに負担の少ない介護技術について学び習得する。 			
実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。			
[・授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本的な介護技術の復習と応用① 3. 基本的な介護技術の復習と応用② 4. 基本的な介護技術の復習と応用③ 5. 基本的な介護技術の復習と応用④ 6. 福祉用具とは 7. 生活支援における福祉用具の重要性 8. 日常生活の自立と福祉用具 9. 福祉用具の活用① 10. 福祉用具の活用② 11. 福祉用具の活用③ 12. 福祉用具の活用④ 13. まとめ 14. まとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」・最新介護福祉士養成講座⑦「生活支援技術Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル 2021」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術VI		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の様々な状況を理解し、その対応方法について学ぶ。 ・介護福祉士としての、応急手当・災害時の支援・人生の最終段階での介護技術について学ぶ。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 実務経験 </div> 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 休息と睡眠とは 3. 休息と睡眠の介護 4. 睡眠障害とその支援 5. 応急手当について 6. 応急手当の実際 7. 災害時における生活支援 8. 被災地で活動する際の心構え 9. 災害における生活支援 10. 人生の最終段階における介護 11. 死をむかえる人の介護 12. 死をむかえた人の介護 13. 亡くなったあとの介護 14. まとめ 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」・最新介護福祉士養成講座⑦「生活支援技術Ⅱ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術 (障害Ⅰ)		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として人の生活の多様性を知り、個々の利用者にあった介護や支援の実践につながる基礎的知識を理解できることを目的とする。			
[授業の概要] 本講義ではさまざまな状態・状況の利用者を理解し、それぞれの利用者に関わるための知識・技術を学ぶ。			
[達成課題] 利用者のさまざまな状態・状況を理解する。 個別性のある介護や支援の方法が理解できる。			
実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. オリエンテーション 2. 利用者を理解する。 3. 肢体不自由のある人の介護の理解 4. 視覚障害に応じた介護の理解 5. 聴覚・言語障害に応じた介護の理解 6. 重複障害に応じた介護の理解 7. 内部障害の基本的理解 8. 心臓機能障害のある人の介護の理解 9. 呼吸機能障害のある人の介護の理解 10. 腎臓機能障害のある人の介護の理解 11. 膀胱・直腸機能障害のある人の介護の理解 11. 小腸機能障害のある人の介護の理解 12. HIVによる免疫機能障害のある人の介護の理解 13. 後期の振り返り 14. 後期の振り返り 15. 後期試験			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑧「生活支援技術Ⅲ」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況 20%、 授業態度・課題の提出 10% テスト 70%	

科目名 介護過程 I		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、ケアに活かすということの意味を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 専門職としての「介護過程」の展開ができる思考過程を身につけていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護実践・評価することの連続であると理解する。 ②事実の内容を理解し、解釈することができる。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは?① 2. 介護とは?② 3. 介護過程の意義 4. アセスメントとは?① 5. アセスメントとは?② 6. アセスメントに必要な「事実」のとらえ方① 7. アセスメントに必要な「事実」のとらえ方② 8. アセスメントに必要な「事実」のとらえ方③ 9. ICFの視点① 10. ICFの視点② 11. とらえた「事実」の解釈① ～コミュニケーションに着眼して～ 12. とらえた「事実」の解釈② ～コミュニケーションに着眼して～ 13. とらえた「事実」の解釈③ ～生活背景に着眼して～ 14. とらえた「事実」の解釈④ ～生活背景に着眼して～ 15. 前期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 適宜レジュメを配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、ケアに活かすということの意味を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 専門職としての「介護過程」の展開ができる思考過程を身につけていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護実践・評価することの連続であると理解する。 ②事実の内容を理解し、解釈することができる。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の振り返り 2. 実習で出会った人について「事実」と「解釈」① 3. 実習で出会った人について「事実」と「解釈」② 4. 介護過程の中の「事実」の捉え方① 5. 介護過程の中の「事実」の捉え方② 6. 計画への活かし方① 7. 計画への活かし方② 8. 計画への活かし方③ 9. 計画への活かし方④ 10. 事実の捉え方・復習① 11. 事実の捉え方・復習② 12. 事実の捉え方・復習③ 13. 事実の捉え方・復習④ 14. 介護過程の実践的展開 15. 後期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 適宜レジュメを配布		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。	

科目名 介護過程Ⅲ		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、ケアにいかすこということを理解する。 ・専門職としての「介護過程」ができる思考過程をみにつける。 ・観察、コミュニケーション、記録等を通じ介護に必要な情報が収集できる。 ・常に「なぜ」を大切にし、その「なぜ」について理解を深め、収集した情報についての理解を深める。 <p>実務経験 社会福祉法人において介護福祉士として勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 介護過程とは(なぜを大切にする) 3. 介護過程とアセスメント 4. 質の高い情報収集① 5. 質の高い情報収集② 6. 情報収集の長所と短所① 7. 情報収集の長所と短所② 8. 情報収集用紙の記入方法・注意点① 9. 情報収集用紙の記入方法・注意点② 10. 情報収集用紙の記入方法・注意点③ 11. 事例から学ぶ情報収集① 12. 事例から学ぶ情報収集② 13. 事例から学ぶ情報収集③ 14. まとめ 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 適宜レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。	

科目名 介護総合演習 I		授業の種類 講義	
授業回数 30 回	時間数 (単位数) 60 (4 単位)	配当学年・時期 1 年前期・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の意義、重要性について理解する。 ・ 実習を通じて学校内で学んだ知識、技術などを体得する。 ・ 介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能および自己に求められる課題を把握する。 ・ 実習現場で必要な技術を習得できる。 <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. 介護福祉実習の意義・目的 2. 実習手引書について 3. 実習施設・サービスについて 4. 見学実習について① 5. 見学実習について② 6. 見学実習のふりかえり 7. 居宅・訪問通所実習に関わる書類と流れ 8. 居宅・訪問通所実習に関わる書類の作成 9. 実習目標の作成 10. 実習日誌の書き方① 11. 実習日誌の書き方② 12. 事前オリエンテーションについて 13. 実習反省会について 14. まとめ 15. 試験		16. 実習の振り返り① 17. 実習の振り返り② 18. 実習の振り返り③ 19. 施設実習 I について 20. 施設実習 I に関わる書類と流れ 21. 施設実習 I に関わる書類の作成 22. 実習目標の作成・事前オリエンテーションについて 23. 実習の振り返り 24. 施設実習 II について 25. 施設実習 II に関わる書類と流れ 26. 施設実習 II に関わる書類の作成 27. 実習目標の作成・事前オリエンテーションについて 28. まとめ① 29. まとめ② 30. 試験	
[使用テキスト・参考文献] 「介護ポケットナビ」(メヂカルフレンド社) 当校作成 手引き		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 発達と老化の理解		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>1 老化や障害が及ぼす心理的影響について理解させる。 2 高齢者や障害者の心理への対応について理解させる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 高齢者や障害者との対人折衝について理解する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 高齢者や障害者の心理的理解ができるようになる</p> <p>[実務経験] 介護福祉士資格・認知症ケア専門士等の資格を有し、療育園等で勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 人間の心身の発達①</p> <p>3. 人間の心身の発達②</p> <p>4. 人間の心身の発達③</p> <p>5. 老化の概念①</p> <p>6. 老化の概念②</p> <p>7. 老化が及ぼす心理的影響①</p> <p>8. 老化が及ぼす心理的影響②</p> <p>9. 老化と適応①</p> <p>10. 老化と適応②</p> <p>11. 老年期の主な精神疾患①</p> <p>12. 老年期の主な精神疾患②</p> <p>13. 老人への対応①</p> <p>14. 老人への対応②</p> <p>15. 前期試験</p>		<p>16. 前期のまとめ</p> <p>17. 老化に伴う変化と日常生活への影響①</p> <p>18. 老化に伴う変化と日常生活への影響②</p> <p>19. 老化に伴う変化と日常生活への影響③</p> <p>20. 老化に伴う変化の受容①</p> <p>21. 老化に伴う変化の受容②</p> <p>22. 高齢者と健康①(症状・訴え)</p> <p>23. 高齢者と健康②(症状・訴え)</p> <p>24. 高齢者と健康③(障害)</p> <p>25. 保健医療職との連携①</p> <p>26. 保健医療職との連携②</p> <p>27. 事例検討①</p> <p>28. 事例検討②</p> <p>29. まとめ</p> <p>30. 後期試験</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑫「発達と老化の理解」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 認知症の理解 I		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症について正しく理解し、そのケアについて学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症の中核症状と周辺症状を理解し、その背景を理解する。 また、家族への支援について知る。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①認知症の人がどのような事を体験し、どのような気持ちでいるかを理解できる。 ②認知症の原因や症状について知り、専門的な対応の必要性が理解できる。 ③認知症の人に対する関わりの基本を理解し実践できる。</p> <p>実務経験 介護福祉士資格・認知症ケア専門士等の資格を有し、療育園等で勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知症を取り巻く状況 3. 認知症の人の医学・行動・心理的理解① 4. 認知症の人の医学・行動・心理的理解② 5. 認知症の人の医学・行動・心理的理解③ 6. 認知症の人の医学・行動・心理的理解④ 7. 認知症の人の体験の理解 8. 認知症の人の生活理解① 9. 認知症の人の生活理解② 10. 認知症の人に対する介護① 11. 認知症の人に対する介護② 12. 地域におけるサポート体制とチームアプローチ 13. 家族介護と介護者ケア 14. 認知症に関する制度・関係機関 15. 前期試験(筆記) 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑬「認知症の理解」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。	

科目名 障害の理解 I		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>障害の概念と障害福祉の基本的理念を学び、各種の障害について学ぶ。 また、障がい者の、歴史的な状況と援助の意義、目的を正しく理解し、 障がい者の援助活動の環境とそれらの重要性を認識する。</p> <p>また、障害を理解し、障害に応じた援助や生活指導ができる知識を学び、 広く社会福祉に貢献できる基礎を学ぶ。</p> <p>実務経験 社会福祉法人施設においてスポーツ指導員として勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 障害の概念① 3. 障害の概念② 4. 障害者福祉の基本的理念と制度① 5. 障害者福祉の基本的理念と制度② 6. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (肢体不自由①) 7. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (肢体不自由②) 8. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (内部障害) 9. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (視覚障害) 10. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (聴覚・言語障害) 11. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I (重複障害) 12. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II (知的障害、発達障害) 13. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II (精神障害) 14. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II (高次脳機能障害) 15. 後期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑭「障害の理解」 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 こころとからだの しくみ I		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2 単位)	配当学年・時期 1 年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 「こころとからだ」を理解し、介護サービスを提供していく際の根拠を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人間としての基本的欲求や生命維持の仕組み等を理解する。 ②利用者の身じたくや食事などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①こころのしくみ ②からだのしくみ ③移動・身じたく・入浴や清潔保持・食事・排泄・睡眠等利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に直接関連する基礎知識、機能低下や障害が及ぼす影響、医療職との連携</p> <p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 身体各部の名称 2. からだの成り立ちの理解 3. 生命活動を調節するしくみ 4. 呼吸のしくみ 5. 循環のしくみ 6. 様々なストレスに対応するしくみ 7. 神経のしくみ 8. 内分泌とホルモンのしくみ 9. 脳のしくみ 10. こころと脳のつながり 11. 認知のしくみ 12. 動機づけのしくみ 13. 社会的人間としてのこころのしくみ 14. まとめ 15. 前期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑪「こころとからだのしくみ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル 2021」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 こころとからだの しくみⅡ		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 「こころとからだ」を理解し、介護サービスを提供していく際の根拠を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人間としての基本的欲求や生命維持の仕組み等を理解する。 ②利用者の身じたくや食事などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①こころのしくみ ②からだのしくみ ③移動・身じたく・入浴や清潔保持・食事・排泄・睡眠等利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に直接関連する基礎知識、機能低下や障害が及ぼす影響、医療職との連携</p> <p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 骨のしくみと働き 2. 筋肉のしくみと働き 3. 活動・移動に関連した基礎知識 4. 活動・移動に関連したこころとからだのしくみ 5. 機能の低下・障害が及ぼす活動・移動への影響 6. 生活場面における変化の気づきと連携 7. 食事に関連した基礎知識 8. 食べることに関連したこころとからだのしくみ 9. 機能の低下や障害が及ぼす食事への影響 10. 生活場面における変化の気づきと連携 11. 排泄に関連した基礎知識 12. 排泄に関連したこころとからだのしくみ 13. 機能の低下や障害が及ぼす排泄への影響 14. 生活場面における変化の気づき 15. 前期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑪「こころとからだのしくみ」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 こころとからだの しくみⅢ		授業の種類 講義・演習	
授業回数 15回	時間数（単位数） 30（2単位）	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 「こころとからだの仕組み」を学び、利用者の状態を理解し介護実践時の根拠を考えられるようになることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本講義では、ヒトの基本的欲求の理解と自立支援の必要性を理解する。特に、ADL 中の更衣・清潔保持・睡眠に関する自立支援につながる介護の必要性を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 身じたく・清潔保持・睡眠等の基本的欲求を支援するために必要な基礎的な、知識や支援・介護の方法が理解できる。</p> <p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 身じたくに関連した基本的欲求とは 3. 身じたくに関連したからだのしくみ 4. 身じたくに関連した観察の必要性 5. 心身の機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 6. 入浴、清潔保持に関連した基本的欲求とは 7. 入浴、清潔保持に関連したからだのしくみ 8. 入浴、清潔保持に関連した観察必要性 9. 心身の機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響 10. 睡眠に関連した基本的欲求とは 11. 睡眠に関連したからだのしくみ 12. 睡眠に関連した観察必要性 13. 心身の機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響 14. 全体の振り返り 15. 前期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑪「こころとからだのしくみ」（中央法規出版）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況 20% 授業態度・課題の提出 10% テスト 70%などにより評価します。</p>	

科目名 医療的ケア I		授業の種類 講義・演習	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>医療的ケアに携わる介護福祉士がもつべき基本的な倫理を学び、保健医療制度に関する知識や医行為の定義、多職種との連携について理解する。</p> <p>医療的ケアを行うにあたり知っておくべき、からだのしくみと働きを学び利用者の状態にあった医療的ケアの必要性を理解する。また、医療的ケアの具体的な手技とその根拠を理解し、医療的ケアを受ける利用者・家族の気持ちの理解に努める。</p> <p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. オリエンテーション 2. 医療的ケアとは① 3. 医療的ケアとは② 4. チーム医療・利用者の気持ち 5. 介護福祉士法の改正法 6. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 7. 安全な療養生活 ヒヤリハット 8. 感染保持と感染予防 9. 介護福祉職の感染予防 10. 救急蘇生 座学 11. 救急蘇生 実技 12. 健康状態の把握 13. バイタルサインの実技 14. 呼吸器のしくみとはたらき 15. 喀痰吸引とは・人工呼吸療法		16. 子どもの吸引について 17. 呼吸器系の感染と予防 18. 喀痰吸引実施手順① 19. 喀痰吸引実施手順② 20. 消化器系のしくみとはたらき 21. 経管栄養とは 22. 子どもの経管栄養について 23. 経管栄養により生じる危険 24. 経管栄養実施手順① 25. 経管栄養実施手順② 26. 喀痰吸引の実技・手順確認① 27. 経管栄養の実技・手順確認② 28. まとめ 29. 後期試験 30. 後期試験	
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑮「医療的ケア」・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」（中央法規出版）		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業時の態度・課題提出・テスト等で評価します。	

科目名 情報処理 I ・ II		授業の種類 演習	
授業回数 30 回	時間数 (単位数) 60 (4 単位)	配当学年・時期 1 年前期・後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>マウスやキーボードの基本操作から始まり、ワープロソフトであるワード (Word)、表計算ソフトであるエクセル (Excel) の基礎を学習する。</p> <p>実務経験 製菓会社等において、タイピストとして勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. Word の基本操作／タイピング練習 I 2. タイピング練習 II／漢字変換 3. 記号入力・ファンクションキー 4. 文章入力 5. 入力測定練習 6. 書式設定 (文字・段落) 7. 拡張書式設定 8. ページ罫線／ヘッダーとフッター 9. ワードアート/クリップアート 10. Word 復習テスト (書式設定まで) 11. ビジネス文書の作成 12. 表 (罫線) の作成方法 13. 表 (罫線) の書式設定 14. Word 復習テスト (総合) 15. Word まとめ／筆記テスト		16. 前期復習 (罫線) 17. 図形 18. Word 復習テスト (罫線・図形) 19. Excel の基本操作 20. データ入力／編集・削除 21. 計算式／コピー・移動 22. Sum・Average 関数 23. セルの書式設定 24. Excel 復習テスト (計算式まで) 25. Max・Min・IF 関数 26. 相対参照と絶対参照 27. グラフ機能 I 28. グラフ機能 II 29. Excel 復習テスト (総合) 30. Excel まとめ／筆記テスト	
〔使用テキスト・参考文献〕 「今すぐ使えるかんたんWord&Excel2019」 (技術評論社)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題提出・テスト 等で評価します。	

科目名 介護福祉特講Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>卒業時の国家試験に合格するため問題の6割以上の正解を目指す。</p> <p>試験科目の特徴、出題の狙い、出題方式などを理解する。</p> <p>実務経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。 ・府下各所の病院において看護師として勤務等。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験科目の解き方と基礎固め① 2. 国家試験科目の解き方と基礎固め② 3. 国家試験科目の解き方と基礎固め③ 4. 国家試験科目の解き方と基礎固め④ 5. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑤ 6. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑥ 7. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑦ 8. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑧ 9. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑨ 10. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑩ 11. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑪ 12. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑫ 13. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑬ 14. 国家試験科目の解き方と基礎固め⑭ 15. 後期試験 <p>※苦手科目を教科書を用いて確かめ、グループで強化する。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 毎回レジュメを配布 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021」・「書いて覚える！介護福祉士国家試験合格ドリル2021」(中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業時の態度・テスト等で評価します。	

科目名 人間関係とコミュニケーションB		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>介護実践におけるチームマネジメントの意義、ケアの展開、人材育成と自己研鑽、組織と目標達成のためのチームマネジメント。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ヒューマンサービスとしての介護サービス 3. 介護現場で求められるチームマネジメント 4. 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 5. ケアを展開するために必要なチームとその取り組み 6. チームでケアを展開するためのマネジメント 7. チームの力を最大化するためのマネジメント 8. 介護福祉職のキャリアと求められる実践力 9. 介護福祉職としてのキャリアデザイン 10. 介護福祉職のキャリア支援・開発 11. 自己研鑽に必要な姿勢 12. 介護サービスを支える組織の構築 13. 介護サービスを支える組織の機能と役割 14. 介護サービスを支える組織の管理 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座①「人間の理解」(中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 フィールドワーク		授業の種類 演習	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実地見聞の意義の重要性について理解させる。 2 実地見聞を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるように活動する。 3 習得した学校内諸学習を応用し、実践的な技術等を体得できるように活動する。 4 介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得できるように活動する。 5 介護福祉士の活動状況を把握するとともに、現場理解と利用者理解をより深める。 <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士として必要な技術と活動状況を把握する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 実地見聞を通して介護福祉士に必要な技術や知識を習得できるようになる</p> <p>[実務経験] 実習委託先で実習指導者資格を有する各施設担当者。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドワークの意義・目的 2. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 3. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 4. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 5. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 6. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 7. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 8. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 9. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 10. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 11. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 12. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 13. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 14. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 15. 前期試験 		<ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション 17. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 18. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 19. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 20. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 21. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 22. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 23. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 24. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 25. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 26. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 27. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 28. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 29. 実地見聞活動・研究活動・報告書作成 30. 後期試験 	
<p>[使用テキスト・参考文献] 当校作成レジュメ配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・発表などにより評価します。</p>	

科目名 人権//ライフゼミⅡ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>クラスの中で、お互いの考えを知ることでこれからの自分の方向性を探し出すきっかけとする。</p> <p>卒業に向けてクラスの中での自分の役割を自覚することで、クラス意識を高める。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークでの報告 ・ 人権学習 ・ 学校行事の企画、実施 ・ 介護過程実習報告会 ・ 卒業にむけての準備 			
[使用テキスト・参考文献] その都度、プリントやレジュメ配布		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護の基本 I B		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての基本的視点を学びます。 ・介護福祉士に求められる役割と期待はなにかを理解し、そのなかで自分が目指す介護福祉士像をイメージできる。 ・実習や現場などで感じた利用者や介護従事者への思い・疑問について情報共有し、介護福祉士としての立場としてどう対応するかを学ぶ。 ・介護福祉士と多職種連携について学ぶ。介護福祉士としての役割、チームアプローチについて理解する。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 実務経験 社会福祉法人において介護福祉士として勤務。 </div>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 介護実践における倫理とは 3. 事例 利用者の尊厳とはこんなときどうする?① 4. 事例 利用者の尊厳とはこんなときどうする?② 5. 事例 利用者の尊厳とはこんなときどうする?③ 6. 利用者のもつ強さとは 7. 利用者の強みをいかした介護とは 8. 自立支援とリハビリテーション 9. リハビリテーションの考えと障害への理解 10. 多職種連携とリハビリテーション 11. 自立支援と介護予防 12. 介護予防における介護福祉士の役割 13. まとめ①(自分が目指す介護福祉士像とは) 14. まとめ② 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座③「介護の基本I」・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ2020」・「書いて覚える!介護福祉士国家試験合格ドリル2020」(中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護の基本Ⅲ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>介護福祉士としての基本的視点を1年次に学びました。それらを踏まえて、介護とは何か、自分自身が考える介護福祉士は、どのような専門家であるかといった、応用的介護福祉士観について学びます。</p> <p>そこで、自分自身の介護福祉士の価値観や倫理観をまとめる行為としての介護研究を行います。</p>			
<p>実務経験 府下の介護老人保健施設等での勤務の後、社会福祉士会監事・理事を歴任。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護研究について 2. 自分自身の介護福祉士の価値観、倫理観 3. 研究テーマについて 4. 先行研究と語り合う① 5. 先行研究と語り合う② 6. 先行研究と語り合う③ 7. 研究方法について① 8. 研究方法について② 9. 研究の評価・分析・まとめ① 10. 研究の評価・分析・まとめ② 11. 研究発表会準備 12. 研究発表会 13. 研究論文のまとめ ① 14. 研究論文のまとめ② 15. 後期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 その都度、プリントやレジュメ配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護の基本IV		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]</p> <p>今まで学習した疾患、特に高齢者に多い疾患をグループで調べ、発表する。 自ら調べ学習し、発表することにより、より深く理解し、学習の意欲を高める。 グループワークを通じ、他者との共同、協調する力をつける。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 高齢者に多い疾患 まとめ① 3. 高齢者に多い疾患 まとめ② 4. 高齢者に多い疾患 グループワーク① 5. 高齢者に多い疾患 グループワーク② 6. 高齢者に多い疾患 グループワーク③ 7. 高齢者に多い疾患 発表 8. 高齢者に多い疾患 グループワーク① 9. 高齢者に多い疾患 グループワーク② 10. 高齢者に多い疾患 発表 11. 高齢者に多い疾患 グループワーク① 12. 高齢者に多い疾患 グループワーク② 13. 高齢者に多い疾患 発表 14. 高齢者に多い疾患 まとめ③ 15. 後期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献] レジュメなど資料を配布します。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 生活支援技術Ⅶ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>レクリエーションとは何か？を深く理解する。個々やグループでのレクリエーションを考えて実践していくことで協調性や積極性を養い、関わる人全てに楽しいと思ってもらえるように学ぶ。そして、自身の楽しみ方も模索し見つけて行く。</p>			
<p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションとは何か？ 五十音クイズ作り ぐるぐるしりとり等 実技班分け 全体歌体操の歌 2. 介護実習室にてラジオ体操 フラフープくぐり 集団レク 3. カルタ作り ナレーション プログラム作成 4. カルタ大会 5. 音楽を使ったレクリエーション技術 都道府県ビンゴ じゃんけんゲーム 6. 歌体操レク 7. 紙コップで出来るレクリエーション 8. レクリエーションを作って楽しむまで 9. 全体歌体操① 10. 全体歌体操② 11. ブラインドゲーム 12. 実技テスト対策 13. レクリエーション実技テスト 14. レクリエーション実技テスト 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 その都度、プリントやレジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 生活支援技術 (障害Ⅱ)		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉士として人の生活の多様性を知り、個々の利用者にあった介護や支援の実践につながる基礎的知識を理解できることを目的とする。</p> <p>〔授業の概要〕 本講義ではさまざまな状態・状況の利用者を理解し、それぞれの利用者に関わるための知識・技術を学ぶ。</p> <p>〔達成課題〕 利用者のさまざまな状態・状況を理解する。 個別性のある介護や支援の方法が理解できる。</p> <p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 前期の振り返り 3. 前期の振り返り 4. 重複障害に応じた介護 5. ALSに応じた介護 6. 悪性関節リウマチに応じた介護 7. HIVによる免疫機能に障害に応じた介護 8. 高次脳機能障害に応じた介護 9. 知的障害に応じた介護 10. 発達障害に応じた介護 11. 精神障害に応じた介護 12. 重症心身障害に応じた介護 13. 全体の振り返り 14. 全体の振り返り 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 適宜、資料を配布する。		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況 20%、 授業態度・課題の提出 10% テスト 70%	

科目名 生活支援技術 (障害Ⅲ)		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題] 様々な障害に応じた介護に関する知識を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として、より高い意識をもって視覚障害者への援助ができるように、その知識と技術を習得する。 ・視覚障害をもつ人たちが、日常生活の中でどのような不自由を感じているか、具体例を豊富に用いながら考え、その不自由さや不便さの原因は何かを理解した上で、介助者がどのように支援すべきかを考える。 ・聴覚障害者の生活上の問題点や社会的障壁を知る。 ・聴覚障害者とのコミュニケーション方法(手話を中心に)と接し方を学ぶ。 ・聴覚障害者とのコミュニケーション手段の基本(自己紹介を通じて)を獲得する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害とはどのような障害なのか? 2. 視覚障害者の生活と支援① 3. 視覚障害者の生活と支援② 4. 視覚障害者の生活と支援③ 5. 実技(点字)① 6. 実技(点字)② 7. 視覚障害者の生活と支援④(介護職の役割、まとめ) 8. 手話の基礎知識(聴覚障害者のコミュニケーションを知る) 9. 実技(手話)①伝えてみよう:身ぶり・表情・指さし・体の動きや表情の工夫 10. 実技(手話)②自己紹介:名前・家族・数字を表してみよう 11. 実技(手話)③自己紹介:趣味・仕事を表してみよう 12. 実技(手話)④自己紹介:住所を表してみよう 13. 実技(手話)④自己紹介:自己紹介のまとめ 14. 聴覚障害者の生活・福祉制度 15. 後期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう!」(全日本ろうあ連盟)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護過程Ⅳ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、ケアにいかすこということを理解する。 ・専門職としての「介護過程」ができる思考過程をみにつける。 ・利用者の安全、快適さ、自立に配慮した介護計画が実施できる。 ・介護目標が達成できたか、具体的な援助内容が適切であったかの評価ができる。 ・介護計画を修正する必要があるかの判断ができる。 <p>実務経験 社会福祉法人において介護福祉士として勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 情報収集の振り返り1 3. 情報収集の振り返り2 4. 情報収集の振り返り3 5. ニーズと要求のちがい 6. 介護計画用紙の記入と注意点 7. 課題とは 8. 長期目標とは 9. 短期目標とは 10. 事例 介護計画の立案・実施・評価① 11. 事例 介護計画の立案・実施・評価② 12. 事例 介護計画の立案・実施・評価③ 13. 事例 介護計画の立案・実施・評価④ 14. まとめ 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 適宜レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 介護過程Ⅴ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>介護過程におけるチームアプローチと、介護福祉士としての専門性を身につける。</p> <p>介護実習との相互性を活かし、実践的思考と技術の習得をめざす介護観を確立していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開における評価の重要性を理解することができる。 ・科学的思考にもとづいたアセスメントの意義を理解できる。 <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程におけるチームアプローチの実際① 2. 介護過程におけるチームアプローチの実際② 3. 介護過程におけるチームアプローチの実際③ 4. 介護過程における説明と同意① 5. 介護過程における説明と同意② 6. 終末期の介護過程① 7. 終末期の介護過程② 8. 終末期の介護過程③ 9. 終末期の介護過程④ 10. 医療ニーズが高い人の介護過程① 11. 医療ニーズが高い人の介護過程② 12. 医療ニーズが高い人の介護過程③ 13. 医療ニーズが高い人の介護過程④ 14. まとめ 15. 前期試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>その都度、プリントやレジュメ配布</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。</p>	

科目名 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期・後期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習Ⅰ・Ⅱ・訪問・居宅介護実習を終え、介護過程実習への心がまえや事前準備などを行う。 2. 最後の実習として、施設運営及びプログラムの作成などについて学び、実習現場サービス全般について理解する。 3. 介護福祉士の役割について理解すると共に、チームケアの一員として、介護業務の遂行と現任準備について理解を深める。 4. 個別の介護過程の展開について学び、記録の方法について理解を深める。7 			
実務経験 <ul style="list-style-type: none"> ・府下各所の病院において看護師として勤務等。 ・社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。 			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程実習についてのオリエンテーション 2. 施設運営管理について 3. 施設でのプログラム作成について 4. 実習現場全般について 5. 介護過程実習準備① 6. 介護過程実習準備② 7. 介護過程実習準備③ 8. 介護技術の再確認① 9. 介護技術の再確認② 10. 介護過程の展開① 11. 介護過程の展開② 12. 介護過程の展開③ 13. 介護過程の展開④ 14. まとめ 15. 前期試験 		<ol style="list-style-type: none"> 16. 実習後のふりかえり 17. 介護過程の展開の評価① 18. 介護過程の展開の評価② 19. 介護過程の展開の評価③ 20. 介護過程の展開の評価④ 21. 介護過程の展開の評価⑤ 22. 国家試験に向けて① 23. 国家試験に向けて② 24. 国家試験に向けて③ 25. 国家試験に向けて④ 26. 国家試験に向けて⑤ 27. 現任準備① 28. 現任準備② 29. まとめ 30. 後期試験 	
〔使用テキスト・参考文献〕 「介護ポケットナビ」(メヂカルフレンド社) 当校作成 手引き		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>認知症について正しく理解し、そのケアについて学ぶ。 認知症の中核症状と周辺症状を理解し、その背景を理解する。 また、家族への支援について知る。</p>			
<p>実務経験 社会福祉法人施設長。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症とは 2. 認知機能とは 3. 認知症の鑑別 4. 認知症の鑑別 5. 認知機能障害と認知症 6. 認知症の予防 7. 認知症利用者との接し方 8. 生活行為の理解 9. 食事場面、排泄場面 10. 入浴場面、調理場面 11. 失禁・不潔行為 12. 徘徊・帰宅願望、幻覚・幻聴 13. ご家族との関わり方 14. 振り返りと認知症ケアの実践 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座⑬「認知症の理解」(中央法規出版) 適宜レジュメを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>障害のある人の障害の実態・認知特性などについて理解し介護福祉士に求められる支援の方法について学ぶ。 障害のある人の具体的な生活や活動事例をもとに、支援の方法を学ぶ。 障害のある人の話を実際に聞くことにより障害から生じる生き辛さを学ぶ。</p> <p>実務経験 社会福祉法人理事長等。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害福祉全般（制度中心）① 2. 障害福祉全般（制度中心）② 3. 障害福祉全般（制度中心）③ 4. 障害福祉全般（制度中心）④ 5. 社会福祉法人そろそろの杜の障害者支援の状況、触法障害者の支援 6. 相談支援事業の実際 7. 放課後等デイサービスの実際・障害児療育について 8. 生活介護の実際・障害の重い知的障害者の支援 9. 就労支援事業における自閉症者への取り組み 10. 就労支援・就労支援・就ボツ・具体的なケース 11. 障害・介護保険、ヘルパー派遣、具体的なケース 12. GH・SS・下宿屋、地域生活について 13. 障害当事者・家族の話 14. 全体まとめ 15. 後期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 特になし		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 こころとからだのしくみ IV		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>① 1年次に行った「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の復習を行い、さらに死にゆく人の心とからだのしくみを学習することにより人間の基本的欲求や生命維持の仕組み等を理解する。</p> <p>② 保健医療制度に関する知識や医行為の定義、多職種との連携について理解を深める</p>			
<p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次に学習したこころとからだのしくみ、ふりかえり① 2. 1年次に学習したこころとからだのしくみ、ふりかえり② 3. 死にゆく人のこころとからだのしくみ 4. 「死」のとらえかた 5. 終末期のからだの理解 6. 終末期のこころの理解 7. 終末期における家族のこころの理解 8. 終末期における医療職との連携 9. エンゼルケア 10. グリーフケア 11. 薬のはたらき① 12. 薬のはたらき② 13. 医行為でない行為① 14. 医行為でない行為② 15. 前期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座⑮「医療的ケア」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 医療的ケアⅡ		授業の種類 講義・演習	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60(4単位)	配当学年・時期 2年前期(連講)	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>医療的ケアに携わる介護福祉士がもつべき基本的な倫理を学び、保健医療制度に関する知識や医行為の定義、多職種との連携について理解する。</p> <p>医療的ケアを行うにあたり知っておくべき、からだのしくみと働きを学び利用者の状態にあった医療的ケアの必要性を理解する。また、医療的ケアの具体的な手技とその根拠を理解し、医療的ケアを受ける利用者・家族の気持ちの理解に努める。</p>			
<p>実務経験 府下各所の病院において看護師として勤務等。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
1. 医療的ケア実施の基礎復習① 2. 医療的ケア実施の基礎復習② 3. 喀痰吸引のしくみ復習① 4. 喀痰吸引のしくみ復習② 5. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技① 6. 高齢者・障害児・児の喀痰吸引実技② 7. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験① 8. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験② 9. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験③ 10. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験④ 11. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑤ 12. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑥ 13. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑦ 14. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑧ 15. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑨		16. 高齢者・障害児・者の喀痰吸引実技試験⑩ 17. 経管栄養のしくみ復習① 18. 経管栄養のしくみ復習② 19. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技① 20. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技② 21. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験① 22. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験② 23. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験③ 24. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験④ 25. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑤ 26. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑥ 27. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑦ 28. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑧ 29. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑨ 30. 高齢者・障害児・者の経管栄養実技試験⑩	
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座⑮「医療的ケア」(中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業時の態度・課題提出・テスト等で評価します。	

科目名 介護福祉特講 I		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>介護福祉士としてケアワーカーの仕事に就くにあたっての心構えと責任感を養い、社会人として必要な基礎学力を身につけながら、採用試験に合格するための作文や面接などのノウハウを学ぶ。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士の仕事と責任、求人の状況と採用試験 2. 一般教養① 3. 一般教養② 4. 一般教養③ 5. 一般教養④ 6. 一般教養⑤ 7. 履歴書の書き方① 8. 履歴書の書き方② 9. 作文① 10. 作文② 11. 面接① 12. 面接② 13. 面接③ 14. 面接④ 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 毎回レジュメを配布する		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。 私語は認めません。	

科目名 介護福祉特講Ⅲ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕</p> <p>卒業時の国家試験に合格するため問題の6割以上の正解を目指す。</p> <p>試験科目の特徴、出題の狙い、出題方式などを理解する。</p> <p>実務経験 社会福祉法人等において介護福祉士として勤務。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目別に、ポイントを理解する① 2. 科目別に、ポイントを理解する② 3. 科目別に、ポイントを理解する③ 4. 科目別に、ポイントを理解する④ 5. 科目別に、ポイントを理解する⑤ 6. 科目別に、ポイントを理解する⑥ 7. 科目別に、ポイントを理解する⑦ 8. 科目別に、ポイントを理解する⑧ 9. 科目別に、ポイントを理解する⑨ 10. 科目別に、ポイントを理解する⑩ 11. 直前対策① 12. 直前対策② 13. 直前対策③ 14. 直前対策④ 15. 直前対策⑤ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>毎回レジュメを配布 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2020」・「書いて覚える！介護福祉士国家 試験合格ドリル2020」（中央法規出版）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>出席状況・授業時の態度・テスト等で評価します。</p>	

科目名 介護福祉特講Ⅳ		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年集中	必修・選択 必修
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題] 卒業時の国家試験に合格するため問題の6割以上の正解を目指す。 試験直前の心構え、苦手の克服、合格に向けての最終調整。 実務経験 ・社会福祉法人等において介護福祉士として勤務 ・府下各所の病院において看護師として勤務等。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 模擬問題を解く① 2. 模擬問題を解く② 3. 模擬問題のポイントを理解する③ 4. 模擬問題のポイントを理解する④ 5. 苦手を克服し、国家試験受験に備える① 6. 苦手を克服し、国家試験受験に備える② 7. 苦手を克服し、国家試験受験に備える③ 8. 苦手を克服し、国家試験受験に備える④ 9. 模擬問題を解く① 10. 模擬問題を解く② 11. 模擬問題のポイントを理解する③ 12. 模擬問題のポイントを理解する④ 13. 直前対策① 14. 直前対策② 15. 直前対策③			
[使用テキスト・参考文献] 毎回レジュメを配布 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2020」・「書いて覚える！介護福祉士国家 試験合格ドリル2020」(中央法規出版)・ 「2022年版 U-CAN の介護福祉士実力ア ップ！予想模試」(U-CAN)		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業時の態度・テスト等で評 価します。	

科目名 健康心理学		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 選択
[授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題]			
<p>健康心理学とは、心身の健康における諸問題に対し、心理学的なアプローチをはかり、健康で幸福な人生を実現するための学問である。</p> <p>本授業では①健康心理学についての理解を深め、②健康心理学の知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につける、ことを目指します。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 健康心理学とは ～健康とは何か～ 3. 健康心理学の特徴と基礎理論 4. 生活習慣と健康 5. ストレスのメカニズム ①生理学的モデル 6. ストレスのメカニズム ②心理社会的モデル 7. ストレスマネジメント 8. ソーシャルサポートと健康 9. 健康的な生活習慣をつくるために 10. 健康と身体意識 11. 各発達段階の健康問題 12. パーソナリティと疾患① 13. パーソナリティと疾患② 14. 健康のための心理的要因 15. 後期試験 			
[使用テキスト・参考文献] 毎回レジュメを配布		[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業時の態度・課題提出・テスト等で評価します。	

科目名 障がい者スポーツ概論		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 選択
〔授業の全体の概要・目的・ねらい・達成課題〕			
<p>障がい者がスポーツを行う意義や目的を正しく理解し、障がい者のスポーツ活動の環境とそれらを支援する指導者・ボランティアの資質や重要性を認識する。</p> <p>また、障がいを理解し、スポーツ活動に応じた指導ができるような知識や、コミュニケーションスキルを学び、広く社会福祉に貢献できる基礎を学ぶ。</p> <p>実務経験 社会福祉法人施設においてスポーツ指導員として勤務。</p>			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 障がい者のスポーツの歴史と施策 3. 障がい者のスポーツの意義と理念 4. 各障がいとスポーツ① 5. 各障がいとスポーツ② 6. 各障がいとスポーツ③ 7. 全国障害者スポーツ大会の概要 8. 障がい者へのスポーツ指導の実際(実技) 9. 障がい者スポーツ推進の取り組み 10. スポーツ指導上の留意事項① 11. スポーツ指導上の留意事項② 12. 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの紹介 13. 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの実践① 14. 障がい者へのスポーツ指導の実際(コミュニケーションスキルの基礎) 15. 前期試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 「障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応」(ぎょうせい)		〔単位認定の方法及び基準〕 出席状況・授業態度・課題の提出・テストなどにより評価します。	

科目名 アロマセラピー		授業の種類 講義	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい] アロマセラピーの基本知識を身につけ、健康的なライフスタイルを自ら実践し、社会に貢献できる人材を育成すること。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 精油の知識や作用など、アロマセラピーの基礎知識。 精油やアロマセラピーの行為が及ぼす心身への影響と活用方法。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] JAA 日本アロマコーディネーター協会所定カリキュラム習得。 アロマコーディネーターライセンス認定試験受験資格取得。</p> <p>実務経験 兵庫県下の病院等においてアロマセラピーカウンセリングケアとして勤務。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
<p>JAA 日本アロマコーディネーター協会所定カリキュラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精油の扱い方を知る。(アロマセラピーの概要と注意事項及び禁忌) 2. 精油の生い立ちを知る。(精油の抽出方法と作用) 3. トリートメントオイルを知る。(キャリアオイルの役割と条件) 4. 精油のブレンド方法を身につける。(ブレンドの比率と香りの相性) 5. 精油の香りが脳に与える影響を知る。(人間の脳と嗅覚) 6. フェイストリートメントの体験。(皮膚への吸収と皮膚と筋肉を知る) 7. 香りの歴史を知る。(歴史を通して精油と人々との関わりを知る) 8. 精油の安全性と危険性を知る。(植物中の香りの濃度と危険性を知る) 9. 精油の作用と身体の仕組みを知る。(アロマに役立つ解剖・生理学を知る) 10. オイルトリートメントを知り、体験する。(トリートメントの有用性と禁忌) 11. 香りの心理作用を考える。(香りと精神的作用) 12. 香水の知識を深める。「別途テキスト：精油テキスト」参考 13. 精油の成分と禁忌の理由を知る。「別途テキスト：精油テキスト」参考 14. アロマセラピーに関する法令を知る。 15. 後期試験 <p>実習 アロマクラフト(エアーフレッシュナー・トリートメントオイル作成等)</p>			
[使用テキスト・参考文献] 「アロマコーディネーターレッスンテキスト」「精油テキスト」(JAA 指定教材)・ 「アロマセラピーの教科書」(新星出版社)		[単位認定の方法及び基準] JAA 日本アロマコーディネーター協会 所定カリキュラム修了	

